

樺太・サハリンの朝鮮人

今 西 一

はじめに

政府は、昨春から実施した高等学校の授業料免除から、朝鮮高級学校を除外している。政府の学識経験者の審議会からさえ反対意見が出ているのに、文部科学省の意見を見做して、拉致関係者を交えた審査会を作った。しかしその審議会さえも、昨年11月23日の北朝鮮からの韓国の大延坪島攻撃^{テヨンピョンド}によって、審議が「停止」されている。朝鮮高級学校側から訴訟さえ起こしかねない情勢になっている。

これは事実上の朝鮮学校の解体政策である。戦後の朝鮮学校は、戦前の「皇民化政策」のなかで母語や民族性^{エスニシティ}を奪われた在日朝鮮人が、政府から何の援助も受けず、自ら立ち上げたものである。そればかりか、1947年、GHQと日本政府は、朝鮮学校での朝鮮語教育を否定し、翌48年には朝鮮学校を閉鎖してしまった。

これに反対して、48年4月23日から26日にかけて、神戸や大阪で朝鮮人や日本の労働者とGHQ・警官隊が対峙する「阪神教育闘争」が起っている。この闘争では、不幸なことに、デモに参加した16歳の少年金太一^{キムテイル}が銃殺され、在日本朝鮮人連盟の兵庫県の本部委員長朴柱範^{パクチュボム}が投獄の過労から逝去している。そして軍事裁判によって、全通大阪地域協議会の村上弘会長（後に日本共産党衆議院議員）に重労働5年、日本人8人に同3年、朝鮮人5人に同2年などの判決が出されている。もちろん朝鮮人は、刑期満了後、韓国に強制送還されている⁽¹⁾。なおこの事件は、2010年7月25日のNHKスペシャルで放送されたが、金太一の銃殺については言及されていたが、朴柱範の死につ

いては触れられなかった。

しかも日本では、2007年5月24日、「在日特権を許さない市民の会（在特会）」という1万人を超す団体が作られ、外国人の地方参政権などへの反対運動はもちろん、2009年の12月4日には、京都朝鮮第一初級学校を襲撃し、「スパイ養成学校だ」、「朝鮮人を日本からたたき出せ」などと罵声をあびせかけ、力づくで校内に押し入ろうとした。鵜飼哲の言うように、「在日」一世の方たちが、「日本社会はこれまでで今が一番酷いと感じている人がかなり」いる、というのも共感できる⁽²⁾。今日、在特会は日本全国で、署名運動をはじめ、さまざまな運動を展開している。日本では、不況の長期化ということもあって、「韓流ブーム」の影で、排外主義、レイシズムが強まってきている。本稿では、この問題を樺太史のなかで考えてみたい。

1 研究史の問題 ― 朝鮮史を中心に

日本の植民地史研究のなかで、近年、最も活発な論争を展開しているのは、朝鮮史だと言えるので、そこでの幾つかの議論を紹介しておきたい。ひとつは、近年、「強制動員・強制連行」という概念があまり使われなくなり、「移民史」という言説が積極的に使われるようになってきていることである。これは「強制動員・強制連行」という概念が拡大され、戦前の日本にいる朝鮮人・中国人が、すべて「強制動員・強制連行」で連れてこられたかのような誤解を生む記述のあったことへの反発によるものであろう。

しかし坂本悠一の図1を見ればわかるように、「日本史」「朝鮮（韓国）史」というような枠で括れないほど、1930年代の日本人、朝鮮人は、東アジアの歴史・地理空間を移動している。また「日本史」や「朝鮮（韓国）史」といった、一国史の枠組みで捉えてきたことの無意味さを感じさせるほど、人、モノ、金、情報は動いている。

日本人は、朝鮮に53万人弱と一番多いが、その次は樺太の28万人余で、台湾や関東州をさえ抜いている。これに対して、朝鮮人は、「満州」に58万

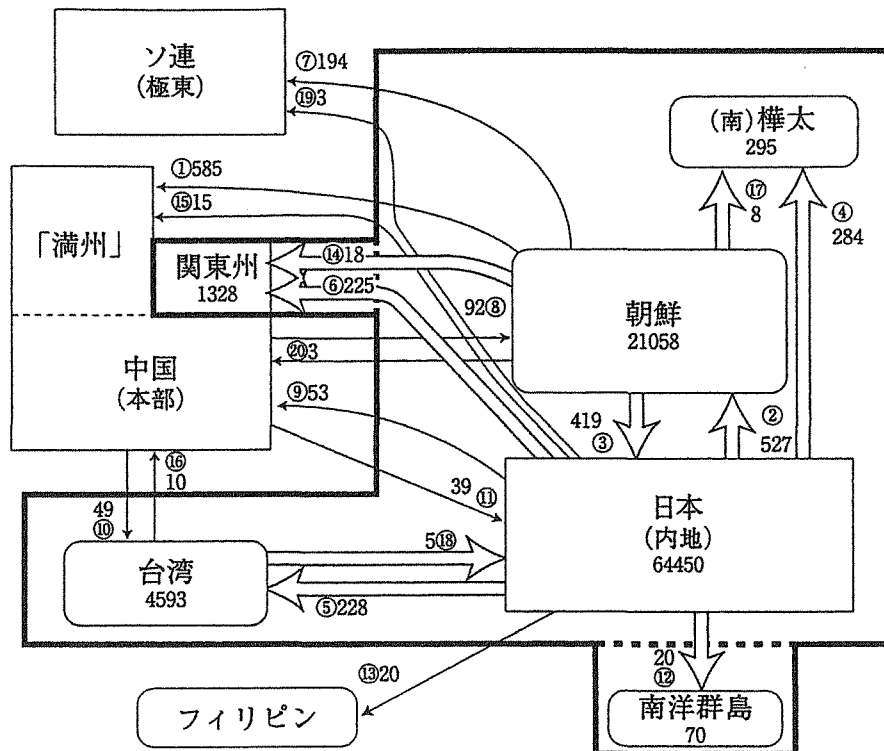


図1 「大日本帝国」と東アジア諸地域の移住人口（1930年）

注：矢印と数字は当該国・地域出身者（国籍・民籍別）の現住人口（2,500人以上、現地出生者を含む）を示す。○数字（人数順）は出典番号、各地域内の数字は国勢調査による総人口（単位はいずれも1,000人・四捨五入）。「関東州」には満鉄附属地を含む。ソ連在住朝鮮人はソ連国籍の者を含むと推定。

出典：

- ①30年12月／外務省亜細亜局『支那在留邦人及外国人人口統計表（第23回）』1931年
- ②30年10月／『（昭和5年）朝鮮国勢調査報告』全鮮編・第1巻・結果表，1934年
- ③30年10月／内閣統計局『（昭和5年）国勢調査報告』第1巻，1935年
- ④30年10月／樺太庁『（昭和5年）国勢調査結果表』1934年
- ⑤30年10月／台湾総督府『（昭和5年）国勢調査結果表』全島編，1934年
- ⑥30年10月／『（昭和5年）関東庁国勢調査結果表』第1巻，1933年
- ⑦32年末？／朝鮮総督府警務局『最近に於ける朝鮮治安状況（昭和8年）』
- ⑧30年10月／『（昭和5年）朝鮮国勢調査報告』全鮮編・第1巻・結果表，1934年
- ⑨30年12月／外務省亜細亜局『支那在留邦人及外国人人口統計表（第23回）』1931年
- ⑩30年10月／台湾総督府『（昭和5年）国勢調査結果表』全島編，1934年
- ⑪30年10月／内閣統計局『（昭和5年）国勢調査報告』第1巻，1935年
- ⑫30年10月／南洋庁『（昭和5年）南洋群島島勢調査書』第3巻，1933年
- ⑬30年10月／『（第51回）日本帝国統計年鑑』1932年
- ⑭30年10月／『（昭和5年）関東庁国勢調査結果表』第1巻，1933年
- ⑮30年12月／外務省亜細亜局『支那在留邦人及外国人人口統計表（第23回）』1931年
- ⑯30年12月／外務省亜細亜局『支那在留邦人及外国人人口統計表（第23回）』1931年
- ⑰30年10月／樺太庁『（昭和5年）国勢調査結果表』1934年
- ⑱30年10月／内閣統計局『（昭和5年）国勢調査報告』第1巻，1935年
- ⑲30年10月／『（第51回）日本帝国統計年鑑』1932年
- ⑳30年12月／外務省亜細亜局『支那在留邦人及外国人人口統計表（第23回）』1931年

出典：坂本悠一「福岡県における朝鮮人移民社会の成立」『青丘学術論集』第13集，1998年，192頁。

同「日本帝国」における人の移動と朝鮮人」『朝鮮史研究会会報』第158号，2005年も参照。

人余と多く、日本「内地」の42万人弱を超えており、またソ連（極東地域）にも19万人余と意外に多い。勿論、定量分析では見えてこない問題、例えば「在満」朝鮮人たちは、日本人の下位には置かれるが、「帝国臣民」として現地の人たちの上に立つという複雑な関係（「差別の重層性」）などがある。しかも、樺太史からすれば、この表では、ロシア極東から樺太に流れてくる朝鮮人が入っていない、という問題点がある。それは、ロシアや中国側の資料が、全く使われていないからでもある。しかし、この表をつくり、概観を示してくれた坂本の努力には敬意を表したい。

帝国日本の移民については、戦前では、矢内原忠雄以外⁽³⁾、非勢力圏への移民と区別して、植民地・勢力圏への移民を「植民」と呼んできた。戦前には、それを「植民学」「植民政策」として講義する講座まで創られていった（北海道大学がその最初である）。1990年に木村健二は、植民地・勢力圏の植民と、非勢力圏の移民を区別し、政策的には植民地・勢力圏の植民が推進的であるのに対して、非勢力圏の移民は抑制的であるとした。前者は中小の商工業者の植民が多いのに対して、後者は労働移民が中心だと特徴付けた。また前者が差別する側に立ち、後者が差別される側に立つとした。そして植民地・勢力圏の植民者は、敗戦とともに、一部の留用者を除いて、殆どが引き揚げたとしている⁽⁴⁾。

しかし、このような単純な二元論は、1990年代以降のサバルタン・スタディーズやポスト・コロニアリズム研究の前に、木村自身も認めているように、有効性を失ってきている⁽⁵⁾。また移民した人々のコミュニティーと、先住民のコミュニティーとが、どのような矛盾・対抗と共存をくりかえすのかを考える場合、杉原達の言うような「対面空間」を研究することも重要になってきている⁽⁶⁾。先述したように、「満州」や南洋諸島での朝鮮人の問題、台湾や南洋諸島における「沖縄人」の問題、樺太での朝鮮人、アイヌ、ニヴフ、ウイルタ等々の問題などを考えると、とても支配／被支配、差別／被差別を二元論的に考えるわけにはいかなくなっている。

さらに非勢力圏への移民研究も進んできて、坂口満広は、近代日本におい

て同時並行ですすめられる勢力圏と、非勢力圏の移民研究とを密着させる必要を説いている⁽⁷⁾。そして岡部牧夫は、移民先に、(1)アメリカ・ブラジルなど独立の主権国家、(2)東南アジア諸地域などの外国の植民地・勢力圏、(3)日本の植民地・勢力圏の3地域を設定して、その移民の区別を説いている⁽⁸⁾。今日では、勢力圏・非勢力圏の両者の移民研究の総合が必要であり、そこに蘭信三編著の『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』（不二出版、2008年）の意義がある。

また朝鮮史では、「植民地近代化」論、「植民地近代性」論などの議論が活発に展開されている。前者は、植民地での工業化が戦時体制下でも進展し、戦後のアジア NIEs の前提となったという議論で、京都大学経済学部の中村^{さとる}哲、堀和生らによって説かれ、ソウル大学経済学部の^{アンピョンジョク}安秉直、^{イヨンフン}李榮薫らによって発展させられている。後者は、フーコー理論などの影響を受けており、身体の規律化や訓練を重視するものであるが、東京大学農学部の^{たけのり}松本武祝らによって提言され、若い研究者の支持を得ている。

前者の「植民地近代化」論に対しては、^{ホスヨル}許粹烈の実証的な批判があり、特に1945年の解放前の経済と解放後の経済との断絶が説かれている。後者の「植民地近代性」論に対しては、^{チョウキョンドル}趙景達から植民地性、民衆史の欠如という厳しい批判がある⁽⁹⁾。

私は、「植民地近代性」論に一定の共感を持っていたが、強制徴用が進み、労働力不足が慢性化するなかで、「植民地公共圏」が拡大して、植民地議会の設立など、「植民地国家」の自立化が進む、といった議論まで登場するようになって、いささか「植民地近代性」の議論には呆れている⁽⁹⁾。戦時体制というものをどう考えているのであろうか。^{キムチュル}金哲の言葉を借りれば、「同化政策、特に内鮮一体政策が被植民者に帝国の一員としての権利と資格を約束する代わりに彼らの血と生命を求めるものであったことは明らかだ」⁽¹⁰⁾。

また近年、「植民地責任」論が論議され、文化財問題の返還問題などとともに、樺太の「残留韓国・朝鮮人問題」なども議論されるようになってきている。これは今後の大きな政治問題になっていくであろう。樺太史を見る場合

でも、戦時下の「強制動員・強制連行」の問題は無視できないものがある。

2 樺太の『朝鮮人関係警察資料集』に見る朝鮮革命運動

樺太は、国境の植民地でありながら、1905年のポーツマス条約によって、日ソ両国が「軍隊」を置けない島であった。そこで警察が樺太の警備に当たるが、それは彼ら自身も不安であった。「樺太庁警察務要覧」(大正15(1926)年6月30日、警察部警務課調査)によると、元泊分署では、巡查1人で、132平方kmの土地を統括し、2,897人を監視しなければならないのである。しかも、交通は不便、通信手段もとぼしいのである。特に「本島(樺太)は赤化主義を綱領とせる、「ソヴェイト」聯邦と接壤し、我国の治安と相容れざる過激主義の宣伝あり」と、共産主義の脅威を説いている(長澤秀編『戦前朝鮮人関係警察資料集』緑蔭書房、2006年、以下、同資料による。ただしこの資料集のもとになった、国立サハリン公文書館の資料の一部は、五十嵐広三によると「焼却処分」になったものもある⁽¹²⁾)。

この共産主義への脅威と、朝鮮人への〈まなざし〉が、密接に結びついている。「豊高秘第七六号／昭和五年一月十五日／豊原警察署長／(要報告)／管内一般巡查殿」には、次のように書かれている。「不逞計画鮮人に関する風評調査の件」として――

「本籍釜山府草梁町四〇四番地／戸主方士圓^{バンサウォン}「子息」／玄龍範^{ヒョニョンボム}「二十四年」／李在和^{イジェファ}「二十年」」の『両名が、不逞計画のために、いずれも内地(日本)へ渡航し、京都、大阪方面に立ち回りおりて、数名の朝鮮人と共謀し、高位高官の写真を撮影し、上海に在る朝鮮独立仮政府に送付し、なんらかの不逞計画を企て居るがごとき状態なりと。(後略)』

朝鮮独立政府から送られてきた、2人のテロリストにより、政府の高官暗殺計画がすすめられているというのである。

また「豊特高秘第三四五号／昭和七年二月一日／豊原警察署長(印)／管内一般巡查殿」には、「在上海不逞鮮人僑民団一派の不逞計画に関する件」と

して、次の事件が書かれている。

「上海に根拠を有する「不逞（朝）鮮人」僑民団においては、桜田門外における不敬事件を勃発せしめたるが、彼等は更に、第二第三の直接行動を敢行せんとする計画中のものの如く。一月七日付布告第一号を以て、別添写の如き民団政務委員を選任し、同月十日第一次政務委員会を開催し、団長^{キムグ}金九が警務委員長となり、直接行動を担任し、更に「韓国独立党宣言」と題し、大韓民国十四年一月十日、韓国独立党と記載したる原漢文の印刷物を以て、^{イボンチャン}李奉昌の不敬事件を記載せる不穩印刷物を作製、各方面に撒布したる情報に接したるに付、彼等一味のものは、更に内地潜入を企て、何時渡来するやも計り難きに付、相当注意相成度」。

李奉昌の「不敬事件」とは、1932年1月8日に、彼が昭和天皇を暗殺しようとして、桜田門で天皇の行列に手榴弾2個を投げつけ、「大逆罪」で死刑になった事件である（「桜田門事件」と言われている）。現在の韓国では、「独立3義士の1人」と言われているが、実像は「女遊びと麻雀」の大好きな人間であった、とも言われている。

金九（本名は^{キムチャンス}金昌洙）は、韓国では最も有名な政治家で、後述するように、1940年大韓民国臨時政府の主席になると、蒋介石ら国民党と反日活動を展開するようになる。「第二第三の直接行動」としては、やはり金九の指導のもとに、^{ユンボンギル}尹奉吉が、1932年4月29日に上海の虹口公園で、天長節（天皇の誕生日）の記念式典に爆弾を投げつけ、多くの死傷者をだしたのは有名である。この事件で、駐華公使重光^{まもる}葵が右足を失い、海軍大将野村吉三郎も片目を失った。^{イボンチャン}李奉昌、^{ユンボンギル}尹奉吉らのこの事件は、朝鮮人＝テロリストというイメージを、日本の政府と民衆に焼き付けた。

「豊特高秘第六〇二号／昭和七年二月二十六日／豊原警察署長（印）／回覧 管内一般巡査殿」を見ても、「拘留執行停止又は保釈出所中の治安維持法違反被告鮮人所在不明手配に関する件」で出てくる、「^{パクキュン}朴均こと^{パクドウギョン}朴得鉉／明治三九年四月六日生」、『^{パクユンチェ}朴燭採こと^{パクノバク}朴魯珀／明治三十六年二月三日生』らは、「右両名はいずれも秘密結社高麗共產青年会に加盟、首題違反被告として」追

われている。高麗共産青年会は、当時の日本では、最も過激な共産主義団体のひとつであるが、警察が追跡する朝鮮人の多くは、犯罪者より共産主義者、無政府主義者、民族主義者に重点が置かれている。

樺太に係わってくる大きな事件としては、「豊特高秘第七〇一号／昭和十年四月二十六日／豊原警察署長　／取締管内一般巡査殿」として出される、「満州国皇帝陛下御訪日に際し、在露不逞鮮人ノ不穩計画ニ関スル件」という、
満州国皇帝愛新覚羅溥儀アイシンギョロブイーの暗殺計画であつた。「最近露領より帰国鮮人蔡某チエは、首題の件に関し取調たるに、左記事実申立てたる趣おもむき、咸鏡北道知事より通報ありたる旨、警察部長より通牒これあり候そうろうじょう 条、現住鮮人に付、厳密内査取締相成度。右通達す。」として――

記「

一、在露一般鮮人間には、滿州国皇帝の訪日は日帝召喚に依り、自己の意志に反し、やむなく渡日することとなりたるものにして、侮辱も甚しく。両国は表面攻守国盟を締結しおれるも、事實は日帝の為め奪取併合されたるものにして、皇帝の訪日後は必ず中華民國及「ソ」聯の進攻に一進展を見るに至るべく云々との流言盛に行はれあり。

二、在浦塩不逞鮮人巨頭^{ウラジオ}金河^{キムハソク}錫^{チヨンマンギョム}全^{ソク}萬^{マン}謙^{ギョム}等を始め重要鮮人幹部十数名は、三月上旬浦塩スターリン倶楽部に集合し、満州国皇帝渡日の機会にこれを殺害し、日満両国親善の裏面に存在する、満州側の不平を爆発せしめ、国際問題化せしむべく、次の決議をなしたり。

一、上海方面より派遣すべき義烈団員と策応し、在露鮮人パルチザン分子中より、最も意思の強固なる前衛分子を選抜、これを数組に分ち、日本内地に潜入せしむること。

二、これら派遣隊員には、特に日本語の堪能なるものを選び、出漁船に便乗せしめ、北海道又は樺太方面に上陸せしめ、漸次南下して東京又は京都方面に集合、事を決行すること。

三、目的達成後は、官憲の逮捕に先立ち、現場において悲状なる街頭演説を為したる上自殺すること。

四、同志の一人において目的を達したる場合は、他の者は日本在住鮮人の群に投じ、同志の獲得、日本要人暗殺、今後の連絡に足る同志を選求することの何れか一つの成功を遂げ、帰露すること。」

溥儀は、1934年の満州国皇帝(康德帝)に即位すると、翌35年に訪日している。これには、昭和天皇も気遣って、東京駅まで出迎えるという異例の歓迎をしている。しかし、「皇帝の訪日後は必ず中華民国及「ソ」聯の進攻に一進展を見る」は鋭く、その後の歴史が証明している。

溥儀を暗殺することによって、「満州側の不平を爆発せしめ、国際問題化せしむ」というのが、暗殺の目的である。しかし、その暗殺団が、「北海道又は樺太方面に上陸」する、というので樺太の豊原警察署は慌てている。「豊特高秘第七〇九号／昭和十年四月三十日／豊原警察署長　／手配ス　管内一般巡查殿」として、「満州国皇帝陛下御来訪警戒密航鮮人手配の件」という手配書が出され、朝鮮人だけでも「密航者名簿」が16人、「未発見」が27人という、密航者狩りが行なわれている。

最後に「豊特高秘第八四四号／昭和十年五月十七日／豊原警察署長　／回覧　管内一般巡查殿」として、「在外鮮人秘密結社状況に関する件」という記事を紹介しておきたい。「福岡県移動警察において左記事実探知したる趣、警察部長より通牒これあり候条、取締上参考に資せられ度」として――

「記

秘密結社「革聯社」

鮮人を主体とする支満鮮（中国・満州・朝鮮）人の反満抗日団体「革聯社」なるもの結成せられ、国民党中央部より莫大の経費を受け、日鮮満支の各重要地区に人員を配置し、日満両国の離間および日鮮満要人の暗殺、鮮満支人の煽動工作に任じつつあり。

（イ）組織経過

不逞鮮人金九一派の朴元峰^{パククオンボン}（新義州出身、年令五〇、米国留学生にして民国二十一年中国に帰化したもの）は尹奉吉^{ユンボンギル}と共に、上海において白川大将暗殺事件に参加し、事件後南洋に逃れ、民国二十三年三月帰国し、金九に協力

して、抗日反満運動従事しありしが、中国々民党要人陳立天、熊式輝、呉敬恒等の支援を得て、昨年九月一日、満韓革聯社を組織し、金九を社長に朴元峰が副社長となれり。

(ロ) 目的

日満両国の離反工作および暗殺団を組織し、且吉林、延吉附近に於て中韓国際革命軍を組織し、反満軍事工作を行はんとするにあり。

(ハ) 組織内容

国民党中央部および藍衣社中央部総部が直接従事し、顧問委員会及特務委員会の委員は、大半国民党中央より人員配当もあり、しかし日満支三国の重要地に支部を設置し、これらよりの通信を、支那本国における排日通信社に誇大に報道せしめつつあり。

(二) 経費

国民党中央部より毎月十万元、外軍事費・武器購入費等は特別に支給す。」

金九と国民党とは合体していくが、彼らは「日満両国の離反工作および暗殺団を組織」し、吉林、延吉付近で革命軍を組織するようになってくる。このように、革命運動も北東アジアの人的ネットワークのうえに形成されてくるようになる。

小括

日本敗戦の直後、ソ連軍の侵攻のなかで、上敷香^{しつか}の警察署で、スパイ容疑で逮捕された朝鮮人 19 人中 18 人が警察で殺される。また瑞穂村では、朝鮮人 27 人が、日本人によって殺される(うち 3 人の女性と、6 カ月の赤ん坊と 12 歳の少年を含む)、これらの事件は林えいだいによって明らかにされた⁽¹³⁾。敗戦の混乱や「朝鮮人はソ連のスパイだ」という流言蜚語の問題など、いくつかの問題を考えなければならないが、私はこの事件の前提に 2 つの問題を考えたいと思っている。

樺太の朝鮮人移民は、徹底して「労働移民型」だということである。樺太の朝鮮人人口を見ると、1925 年 3,206 人(女子 882 人)→35 年 7,053 人(同 2,532 人)→1940 年 16,056 人(同 4,395 人)→1943 年 25,765 人(同 7,552 人)

である。一貫して女性の人口比率が少なく、「家族」を構成するのが困難だという問題である。季節労働などで、出稼ぎに来る労働者なども多く、男子労働力が多かったということもあったが、それにしても豊原（現ユジノサハリンスク）などの都市形成が進んでも男女格差が大きいのである。

三木理史は、1920年代に朝鮮人が急増するのは、「ロシア革命の東漸」と北サハリンの日本軍の占領解除（1925年の日ソ基本条約）が、樺太の朝鮮人の急増に結びついたとする。彼らは新興工業都市の知取、恵須取、敷香などの西海岸に居住し、「家族単位の移住者」が多かった⁽¹⁴⁾。この「ロシア系の朝鮮人」は、戦後も「零細企業ではあっても、それなりに海産物加工業、毛皮販売の店、雑貨商などを経営して」、「比較的裕福な生活をしていた」⁽¹⁵⁾。

問題は、1938年に制定される国家総動員法の下で、翌39年の企画院の「昭和14年度労務動員実施計画綱領」をもとに、同年から政府は重要産業部門への朝鮮人移入が決定するが、これが「強制連行」の開始である。そして42年2月23日に閣議決定された「朝鮮人労務者活用関する方策」があり、これを受けた42年の朝鮮総督府は、「朝鮮人内地移入斡旋要綱」を制定する。後者では「2年」という時期を設けているが、実質的には殆ど意味のない「強制動員・強制連行」である。表1では、1939年からの国家総動員法下のものであるが、樺太の場合は計画は1万9,500人で、渡航者の実数は、1万6,113人である。しかし、この数は過少であり、1944年は1年間の数字ではなく、樺太は渡航者数を把握していないし、45年の数字を除外している。一般的な傾向を知るために、ここにあげた。しかし、準戦時・戦時体制下に樺太の朝鮮人人口が急増しているが、これは国防の問題からも考える必要がある。

また先述してきたように、日本警察にとって朝鮮人といえば、ゲリラ、スパイであり、〈危険な民族〉として刷り込まれてきた歴史がある。北東アジアの民族運動、共産主義運動の激化のなかで、朝鮮人を危険視する敵対関係、「関係の絶対性」（吉本隆明）はますます強まったと言える。

表 1 朝鮮総督府鉱工局勤労働員課「内地樺太南洋移入朝鮮人労務者渡航状況」
(1944 年 12 月)

年度	地域 区分	国民動員計画 による計画数	渡 航 数				
			石 炭	金 属	土 建	工場他	計
1939	内 地	85,000	32,081	5,597	12,141		49,819
	樺 太		2,578	190	533		3,301
	計	85,000	34,659	5,787	12,674		53,120
1940	内 地	88,800	36,865	9,081	7,955	2,078	55,979
	樺 太	8,500	1,311		1,294		2,605
	計	97,300	38,176	9,081	9,249	2,892	59,398
1941	内 地	81,000	39,019	9,416	10,314	(1) 5,117	63,866
	樺 太	1,200	800		651		1,451
	計	17,800	39,819	9,416	10,965	1,781	1,781
1942	内 地	120,000	74,098	7,632	16,969	13,124	111,823
	樺 太	6,500	3,985		1,960		5,945
	計	3,500	78,083	7,632	18,929	2,083	2,083
1943	内 地	150,000	66,535	13,763	30,635	13,353	124,286
	樺 太	3,300	1,835		976		2,811
	計	1,700	68,370	13,763	31,611	1,253	1,253
1944	内 地	290,000	71,550	15,920	51,650	14,606	128,350
	樺 太					89,200	228,320
	計	290,000	71,550	15,920	51,650	89,200	228,320
合計 ⁽³⁾	内 地	814,800	320,148	61,409	129,664	122,872	634,093
	樺 太	19,500	10,509	190	5,414		16,113
	計	23,000	330,657	61,599	135,078	5,931	5,931
		857,300			128,803		656,137

出典：「第八六回帝国議会説明資料 四 労働市場」（戦後補償問題研究会編・刊『戦後補償問題資料集』第2集，1991年，29-30頁）

原本注：昭和19年度分は12月末迄に送出すべき割当員数とす。

昭和19年度計画数290,000人の外更に100,000人の追加要求あり。

編者注：(1) 原表記載の数字は2,117である。これは明白な誤植なので，訂正した。

(2) 原表記載の数字は13,207である。これは明白な誤植なので，訂正した。

(3) 1939-1944年度の産業分野別の合計の欄は原表にはなく，編者が算出したものである。

出典：山田昭次他『朝鮮人戦時動員』（岩波書店，2005年）69頁

3 朝鮮人の帰国問題

戦後の樺太は、日本人を帰したが、なぜ朝鮮人を「内地」に戻さなかったのかという「残留朝鮮人」の問題がある。1945年8月の樺太には、旧ソ連の資料では36万人弱の「日本人」（樺太生まれを含む）と2万3,500人の朝鮮半島出身者がいた（天野尚樹氏の御教示による）。彼らもまた「帝国臣民」であったが、1946年に締結された「ソ連地区引揚米ソ協定」によって、20万2,590名の日本人は引き揚げた。ところが「解放」されたはずの朝鮮人には、引き揚げを認めなかったのである。もちろん作家の李恢成一家のように、「日本人」に化けて引き揚げてきたり、後述のインタビューでもでてくるが、密出国で北海道に来た人もいる。しかし、その理由は、1948年時点のものであるが、国会図書館の所蔵文書を見ると、ある程度の想像はできる。

国会図書館所蔵の「MGFAF」の「第二付属文書」には、次のように書かれている。

一九四八年二月二四日

在朝鮮米軍軍政部司令部

在朝鮮米軍司令官

一、戦争終結後、南朝鮮への帰国者・避難民は二八〇万人以上と見られ、彼らの帰国は食料・衣服・家屋についての現在の供給能力を超えている。こうした朝鮮経済の非常な消耗は、今後の相当数の避難民の流入によって、とくに冬期に向かってさらに深刻化するものと思われる。それゆえ、現時点において三八度線以南に居住していたサハリンおよびクリル諸島残留の数千人の人々を南朝鮮に受け入れることを言明することは望ましくない。（国会図書館文書番号# 26～27、以下同）

まず強固に反対したのは、南朝鮮の米軍軍政部である。現在の統治——食料不足、民衆の騒乱のなかで、樺太・クリル諸島の朝鮮人を受け入れるのは、難しいという返事を出している。まだ、この時点でも「数千人」として、在留朝鮮人の正確な数を掌握していない。

サハリンからの朝鮮人帰国について外交局は、「参謀総長宛」に、次のような文章を出している（1948年3月9日）。

三、一九四八年二月二四日、在朝鮮米軍は現時点においてこれら朝鮮人の帰国を申し入れることに反対し、南朝鮮出身で日本軍の保護の下に当該地域へ送られた朝鮮人の数に関しては対日理事会ソ連代表へ情報提供を求めるよう要請した（付属文書D）。在朝鮮米軍司令官は、この情報は南朝鮮の現在の国内情勢の一定局面を取り扱う助けとなると述べる一方、このことは帰国についての言質を与えることなく行われるように求めていることに注意を払われない。（# 25）

米軍は「帰国についての言質を与えること」なく、ソ連に「強制連行」された朝鮮人の数を調べるように要請している。

一方、ソ連側の意図としては、G 3の「外交局宛て」、「参謀総長宛」文書であるが――

一九四七年十一月二二日（前略）日本政府はサハリンからの日本人引揚者の話として、ソ連側は日本人引揚による労働力不足のため多数の朝鮮人を労働者・農民として北朝鮮から移入していると述べたと報告している。（# 34～35）

と語っている。南朝鮮の米軍は、食料事情や社会情勢から考えても、樺太からの引き揚げ者を受け入れる余裕はなかったし、ソ連は日本人引き揚げによる労働力不足で、北朝鮮から大量の労働力移民をいれている時に、先住朝鮮人を手放すことはなかった。

よく問題になるのは、「ソ連赤十字社ディミトリーD・ベネディクトフ社長から日本赤十字社社長宛の書簡」というもので、1987年4月28日付のものであるが、五十嵐広三衆議院議員が、1991年2月22日の衆議院予算委員会に取り上げたものである。その内容を紹介すると――

一九四五年から一九四八年に日本国籍の人々は日本に引揚げましたが、朝鮮籍の日本人については、日本当局はポツダム宣言の条文を引用して、かれらは最早日本人とみなさないよう公式に要請しました。

というのである⁽¹⁶⁾。日本側からポツダム宣言に照らして「かれらは最早日本人とみなさない」と言ってきたというのは、苦しまぎれのデマであろう。今まで何人かの人びとが、この日本側文書を探しているが発見できない。そもそも 1946 年の米ソのサハリンからの引き揚げ交渉に、日本側が介入できたとは考えられない。

むしろ問題なのは、国会の政府側答弁で、残留朝鮮人の数はコロコロ変わるし、衆議院予算委員会第二分科会で、島上善五郎衆議院議員の質問に答えて、河野鎮雄厚生事務官（引揚援護局局長）は次のように答えている（1958 年 2 月 17 日）。

実は第三人を引揚者というふうな観念で考えますことは非常に無理でございます。……

朝鮮におる人を徴用して樺太に持っていったという例はないはずだと思います。一応募集という形式をとっております。

ここまでくると歴史の偽造で、自由な「募集」であって、「強制」はなかったというのである⁽¹⁷⁾。

小括

戦後の日本の政治家たちが、朝鮮人をどう見ていたかは、水野直樹が紹介した「清瀬一郎文書」が有名である。清瀬は、1945 年 10 月 23 日の閣議決定が、「「在住」といふ事実により、今次の総選挙に於ける選挙権、被選挙権を有せしむ」としたことに、次のような反論を述べている⁽¹⁸⁾。

（6）九月に出された緊急勅令で選挙人名簿の登録について居住期間の要件を廃止したが、これによれば「内地居住の鮮台人」二百万人に選挙権を認めることになる。しかも彼らは都市および鉾山地区に集中しており、大選挙区制の下では「此等の者が力を合すれば最小十人位の当選者を獲ることは極めて容易なり。或はそれ以上に及ぶかも知るべからず。我国に於いては従来民族の分裂なく、民族単位の選挙を行ひたる前例なし。今回此事を始めんとす。もし此の事が思想問題と結合すれば如何。その結果実に寒心に堪へざるものあらん。次の選挙に於て天皇制の廃絶を叫

ぶ者はおそらくは国籍を朝鮮に有し内地に住居を有する候補者ならん」。

このように「多くの朝鮮人議員が生まれ、「民族の分裂」が生じるのみならず、天皇制に対する危機が強まる」というのが、清瀬が朝鮮人の参政権に反対する最大の理由であった。朝鮮人・台湾人の日本国籍も離脱せよという清瀬の意見は、即政府・内務省で受け入れられたわけではないが、清瀬の「政治的見地・治安対策的観点からの参政権保持反対論は次第に政府側に影響を及ぼして」いった。

しかし、11月には、「戸籍条項」が制定され、「戸籍法ノ適用ヲ受ケザル者ノ選挙権及被選挙権ヲ当分ノ内停止」した。しかも、12月17日に公布された衆議院議員選挙法中改正法の全国知事宛の「通牒」では、「戸籍法ノ適用ヲ受ケザル者即チ朝鮮人、台湾人及樺太土人（アイヌ人ヲ除ク）ハ選挙権及被選挙権ヲ有スルモ当分ノ内停止」されている。樺太（サハリン）の先住民（ウィルタ、ニヴヒなど）も「戸籍法の適用を受けない点では朝鮮人・台湾人と同じ法的地位にある者として、選挙権・被選挙権が停止」されている⁽¹⁹⁾。わずか20日余りの間で、「戸籍条項」を盾に、朝鮮人などの選挙権を奪ったのは、相当の悪知恵の働く人物の策動であったが、その人物が誰かは未だ確定されていない。

また46年6月25日、「政府は貴族院令の一部を「改正」する勅令案を貴族院に提出した。それは、樺太の多額納税議員および朝鮮・台湾からの勅令議員に関する規定を削除するためのものであった。総理大臣吉田茂は、「「ポツダム」宣言受諾後、朝鮮、台湾及ビ樺太ニ於テ統治権ヲ行使シ得ザル實際ニ鑑ミマシテ、是等ノ規定ヲ削除スルヲ適当ト考ヘタ次第デアリマス」と説明している。しかし、水野も指摘しているように、新憲法が公布され、貴族院が廃止されれば、朝鮮、台湾、樺太の植民地議員は自動的に消滅する。「政府・議会は「統治権」を行使し得ない地域から選ばれた議員を少しの間でもその地位にとどめて置くことを避けようとした」のであろう⁽²⁰⁾。

吉田首相の朝鮮嫌いは徹底しており、1951年のサンフランシスコ講和条約の時にも、アメリカのダレスは、条約当事国に韓国を加えてはどうか、と吉

田に持ちかけた。すると吉田は、「在日朝鮮人は非合法活動をしており、日本政府はこれを憂慮していること、本国に送還したいがマッカーサが反対したこと、下山事件の犯人は朝鮮人だと確信していること等々、朝鮮人に対する差別感情を露わにして、ダレスの申し出を断った」⁽²¹⁾。1951年は、日本共産党の武力闘争の最中であり、その先頭に「在日」朝鮮人が立っていたが、吉田は戦前に奉天総領事を経験しており、「朝鮮人＝テロリスト」というイメージを強く抱いていた政治家であった。

4 樺太・サハリンの生活史 ― 安山市「故郷の村」でのインタビューから

2009年の9月12日から14日の3日間、私たちは、韓国京畿道安山市の「故郷の村」で、約20人ほどのサハリンから引き揚げてきた韓国人から、1人2～3時間のインタビュー調査を行なった。参加者は、表2の通りである。同

表2 インフォーマントとインタビュアー

No.	氏 名	生 年 月 日	インタビュアー
1	尹 興 捷	1924年12月12日	今西 一・金 鎔 基
2	崔 智 海	1930年9月29日	今西 一・金 鎔 基
3	朴 大 吉	1928年2月8日	三木理史・中山大將
4	金 永 日	1929年10月	今西 一・許 粹 烈・金 鎔 基
5	任 宗 善	1930年9月29日	今西 一・金 鎔 基
6	李 世 鎮	1931年4月28日	三木理史・金 鎔 基・中山大將
7	李 起 正	1931年9月16日	天野尚樹・中山大將
8	李 炳 玉	1933年4月22日	今西 一・天野尚樹
9	金 都 榮	1933年10月15日	今西 一・金 鎔 基
10	張 日 三	1933年12月3日	倉田由佳・中山大將
11	高 昌 男	1935年11月2日	三木理史・中山大將
12	金 相 吉	1936年3月25日	三木理史・中山大將
13	平 山 清 子	1939年2月19日	三木理史・中山大將
14	文 道 心	1924年	今西 一・許 粹 烈・金 鎔 基
15	黄 龍 門	1930年3月10日	倉田由佳・中山大將
16	金 鐘 聲	1935年	倉田由佳・中山大將
17	張 永 福	1933年12月30日	倉田由佳・中山大將

地域の紹介などは、拙稿「植民地」責任への旅」（『アリーナ』第8号，2010年）に書いたので、早速、彼らの生の声を聞いてみよう。なおこのインタビューは、京都大学研究生の中山大將がテープ起こししてくれたものを使うが、原稿はA4版でも134頁あり、いずれ全文を活字化して公開する予定であるが、ここで使うのはほんの一部である。

^{イセイジン}
李世鎮は、1931年4月28日に、樺太の恵須取で生まれた。朝鮮北部から来た朝鮮人の一家であった。

— お父さんは朝鮮半島生まれですか？

もちろんその通り。お母さんも。北朝鮮の平安南道。それで金持だったらいいね。代々。何をやっていたかという、船で以て、平安南道の農作物を船に積んで、朝鮮半島をひとまわりぐるっと回って、黄海に出てから、元山で、農作物を売りさばいて、海産物、水産物を積んでまた戻ってきて。まあ、うまくやっていて、お金がなんぼあるのか、わからないほどの金持ちだったんですよ。ところが、あの、暴風雨がありますね、台風。それでもって、船が難破して、人も亡くなって荷物もなくなって、おじいさんはがっかりして、人も死んだし、酒を飲んで、中風にかかっちゃって。して、いまでも治せない病気で、お金を相当使って、そこにまた女性にも弱かったからね、女性と裁判にかかったりして。それで身代がボロボロになって、お父さんが小学校2年生くらいまで通って、それ以上勉強できなくて、お父さんが、お父さんのお兄さんになる伯父がね、人力車の後押しをやったんですよ。そういうことをするようになって。それで、その伯父さんが日本軍が、シベリア出兵のその頃に、アメリカにも地図を見たら歩いて行けそう、ということで、ノコノコ出て来て、ハバロフスクまで行ったら陸軍がちょうど来ていたんです。それで、アメリカに行くのが駄目になって、日本軍と一緒に行動して北樺太に行くようになって、北樺太にね、軍隊が地図を作る専門家がいて、測量の器械をしょって歩いたりしてね、荷役の仕事をしたんですよ。北樺太で。それで、そこから南へ下りて、恵須取へ行っただけです。

そのころ、恵須取は開発を始めまして、木材が、林業がたくさんありまして、木材利用して、パルプ工場がすごく建てられたんですよ。で、景気が上がってきて、伯父さんがそこで、弟の自分のお父さんとか呼んだんですよ。うちの親父は京城で自動車学校を卒業してから、貨物自動車の運転できる免許をもらったんですよ。その頃は運転手って多くなかったですからね。樺太に来てから、トラックの運転をやりながら、伯父さんの家事を助けたり、夏はトラックで木材を運ぶし、冬は馬で造材ですね。それでお金をもうけたんです。普通の人よりようけ儲けるようになって、それで大家さんになって、家をあちこち買って。日本人を入れて。冬は自動車が通れなかったですから、客馬車というのがありました。いい馬を持っていて、競馬大会で、樺太で二番に入りました。いい馬を持ってね、恵須取から珍内、久春内へ飛ばすんですよ。お客さん四人を乗せてね。帰って来ると大金が入って来るんですよ。それが冬で、夏はトラックで。(中略)運転手やってるから、知っている人がたくさんあった。サクタン、西柵丹という炭鉱街がありました。そこにお父さんの知り合いの人が、飯場を持って 400 人くらい労働者を、韓国人の労働者がいて、労働者はみんなお金をもっていたんですよ。朝鮮人は知識がないんで、銀行とか貯金とか、郵便局に貯金するとかしないね、飯場でみんなお金を持っているんですね。飯場でもらったお金。飲食費とかをさっぴいてね、大金を持っているんですよ。それで金を借りて、塔路に女郎屋を開いたんですよ。

そのあとに、もう一人の韓国人がお父さんの後を継いで、入ってきました。そこは末広町というところで、日本人の女郎屋が 4・5 軒ありまして、韓国人の女郎屋も 2 軒あって。戦争時代ですから、大東亜戦争の始まる前に、景気が良かった（良かった）んですよ。日本は油はなかったけど、石炭はあったから、軍艦が動いていたらしい。で、お金をもうけて、2、3 年で借りたお金を返したんですよ。ところが、44 年度にですね、閉山して、塔路の炭鉱が、なぜかという、戦争で日本の敗戦の色が濃くなって、石炭を日本へ運ぶのが危険になったんですね。

また戦後のサハリンのポーランド人については、次のように語っている。

戦争終わって、塔路へ集まったんです。伯父さんがね、みんなで集まろうと。これからどうなるかわからないと。伯父さんも、豊原の家が空襲を受けて、全焼したんですよ。戦争時代に綿とかなかったからね、生糸とかそういうのを加工して、そこから綿に似たようなものを作ってね。そういうのが、戦争の終わる二年くらい前からはやり出したんです。日本では、アメリカが、綿をくれないから。その伯父の工場が全焼したんですよ。日本時代から、ロシア人がいたんですよ、それからポーランド人。敗戦が濃くなってくると、そのポーランド人を、豊原から、喜美内（タンボフカ）というところへ、移したんです。そこへのお寺も建てて家も建ててね、そこへ住めと。収容所ではないんです。沿海州の朝鮮人は、貨車に閉じ込めてね、水もくれないで、病気になって死んだけど、もっと紳士的だったんですね。いままで住んでいたうちはどうしたかという、白露戦争の前に建った家で、うちの伯父さんが買ったんです。いまはなくなったけど。そのうちに住むようになりました。チェーホフも住んだところ。北豊原にあったんです。ポーランド人はね、伯爵か何か、独立運動のときにつかまって、サハリンへ連れて行かれたわけです。戦争が終わってからね、ポーランド政府がその人らの資料がほしいってきました。で、サハリンではね、字に明るい人っていうのは、ロシア人より、そのポーランド人だったんですよ。ポーランド人のうちというのは、大きかったんですよ。牛も馬も飼っていたし。それは壊してしまったんですよ。なんでっかという、ロシア人がねそこに食堂を建てるようになったんですよ。で、その家が邪魔になって。

戦後、彼の妹は北朝鮮に行くのだが、その理由については、次のように語っている。

朝鮮学校は命令で廃校になりました。なぜかっていうと、教科書が全部朝鮮語なんですよ、内容が全部朝鮮語、そういう人間は、ソ連の社会では、活動することができないんですよ。妹たちはここにいるときに北朝鮮の国籍を

もらいました。憤慨したんだよ、妹たちがかわいそうで。ここにのこったのにさ、勝手に姉の婿さん、東京美術学校の、勝手に北朝鮮の国籍をもらったんです。北朝鮮の平安北道出身の方が、朴って方がいて、ナホトカの領事の右腕をやっていて、それで近しく（親しく）なって、北朝鮮へ来たら平壤（へいじょう）で居住権を作ってやるって、やっぱりね、平壤の方が配給がいいんです。北朝鮮は、配給制度なんですよ。ロシアでもモスクワとレニングラードと、キエフだけは配給制度がよかったんですよ。外国人がその人の生活を見て、ソ連全体の生活と思うから。姉の婿はね、北朝鮮へは行かなかったんです。なぜかという、この人はユジノサハリンスクの朝鮮人会の副会長になったんです。会長は、北朝鮮から派遣して来た人。この人が死んだんですよ、死んだらね、ロシアの KGB が外交のねスパイをしている人をね、裁判なしに殺してしまうんですよ。裁判なしで、高いところからつき落とししたりしてね。

連れ合いについても次のように語っている。

ここ（安山）に来たのは、2005 年の 8 月 26 日にここに妻と来ました。その前に観光団でも 2 回来ました。3 回来る権利があったけど。妻も元気ですよ。僕より 4 歳下で。彼女は韓国生まれで、6 歳のときに慶尚北道から来たんです。製鉄所のある、ホコウから来たんです。親戚がみんな韓国で偉くなったんです。パクキョンヒ大統領の親友。日本時代に満洲国の下士官みたいな仕事をしていて、韓国で陸軍学校の校長までしたんです。妻の従弟です。慶州の市長もやったし、大邱の内務部長もやったし。釜山の区長もやったことあるし、旅行会社の会長もやって、でも、その息子がアメリカで大失敗をしたんですよ。インチキな買い手にお金をやって、だまされたんです。いたましいですよ。あの頃は、軍国主義の時代だったからね、子分をつっこんで。慶州の方は北朝鮮軍が入って来るのが遅れて、そういう功績があったんですね。

キムヨンイル

金永日は、1929 年 10 月に、樺太の落合管内の白浦生まれの女性である。彼

女は、高等小学校時代のことを次のように語っている。

— 子供のころはどうしていたんですか？

白浦で高等 2 年終わりました。樺太時代は学校でね、楽しく暮らしました。日本人とおんなし。朝鮮の女の人二人しかいなかった。高等 2 年の時。

— 朝鮮人に対する差別のようなものはありましたか？

あるです。一回ね、高等 2 年の時。体力検定会ってあるんです、あのとき一等だったのにね、朝鮮の学生だって、他のひとにあげたんです。どうしてわかったかって言うと、姉さんの友達が役場で働いていて、それでこそっと。そんとき一回ね。

また、結婚の問題については —

— 当時、朝鮮人と日本人との結婚というものはありましたか？

そういうときは難しかったね、親が許さないから。その頃はね、ないように思います。

^{ユンコンショウ}尹興捷は、1924 年 12 月 12 日の釜山生まれ、^{チュエチハイ}崔智海は、1930 年 9 月 29 日の生まれである。敗戦直後の様子を次のように語っている。

— 朝鮮人は引揚できませんでしたね？

崔：いまでも言っているでしょ、朝鮮人は日本統治下に入ってから、韓国の姓をなくして、朝鮮人の認識をなくして、みんな日本人だと。戦争終わったらあんたたち日本人でないと、国籍がないんだと、みんな捨てられて。

— 終戦に対して朝鮮人の人たちはどのような反応をしましたか？

崔：サハリンで終戦を迎えましたから、朝鮮人の間の噂では、戦争が終わったから、自分たちは日本人より先に韓国へ帰れるって噂がひろがったんですが、48 年から 3 年のあいだ、日本の人たちは殆ど全部日本へ帰ったんですが、今までサハリンに残りました。

— 日本へ引き揚げた朝鮮人もいたのでしょうか？

崔：はじめ確か帰れたんです（「緊急疎開」のことを言っていると思われる）。ホルムスク、真岡から船が出ていました。ほんの少数ですけど、朝鮮の方

で、日本を経由して韓国へ帰った方が、何人かいると思います。あとは、行かれませんでした。夫婦の人、奥さんが日本人とか、そういう方は一緒に帰れた方もいましたし、そういう方もいました。

— ソ連が朝鮮人を韓国へ帰してくれるという噂はあったのでしょうか？

崔：根拠はですね、記憶ありませんね。

— 戦後直後の国籍はどうなっていましたか？

尹：無国籍。

崔：ロシアが45年の12月あたりから、パスポートの交付が始まったんです。最初は無国籍、そのあと、何年か過ぎてから、ロシアの国籍を欲しい人は申請しなさいと。長くて6カ月、短くて3カ月、国籍をもらえたんです。

— 戦後はどんな仕事をなさったのですか？

尹：漁業。コルサコフ、大泊。沿岸漁業。

崔：ロシア時代は、集団組合で。

— 国籍はどうしましたか？

尹：ずっと無国籍。

崔：1948年以降だと思います、ソ連が北朝鮮の領事館、ナホトカ。その当時に、活発にですね、北朝鮮の共和国の国籍をもらいなさい、と。若い人たちに北朝鮮に帰りなさいと、(そ)したら、好きな大学に入れると。一年して夏休みにはサハリンに帰れると。若い人はたくさん行きましたと、4,000人くらい。一年過ぎて、二年過ぎて、誰も帰ってきませんでした。僕の甥も行ったんです。留学したかったんだけど、許可がもらえなくて、なぜお母さんのもとへ帰らせてくれないんだと申請をしたら、共和国の憲兵ににらまれて、あれは何年だったか、国境を越えて、不法入国して、来るつもりだったんだけど、射殺されたいらしいんだけど、行方不明になったんです。

— 日本への帰国運動もありましたよね？

尹：ああ、そうです、もっと後です。

— 北朝鮮へ帰国した人もいますね？

崔：若い人たちは4,000人以上ですね、集団的に行きました。強制的に送還

された人もいます。それはどういう人かという、36 人か 37 人だったと思いますけど、理由は何かと言うと、内緒にですね、韓国の放送を聞いていたんです。50 年過ぎてからだと思いますけど、日本の領事かなにか来るときに、デモをしたんです。韓国へ返せって。そのために、確か、はっきりした数字は覚えてませんが、30 数人、強制的にですね、24 時間以内にハバロフスクに經由して、北朝鮮へ送還されたんですね（都万相事件。都一家は北朝鮮に引き渡された）。それはもうわからない。南朝鮮に返せっていうと、罪もないのに。自分たちは北朝鮮へ帰れって宣伝しても何でもないのに。

—— 共産主義教育というのはありましたか？

崔：特別な教育ってありませんでした。講習だとか、北朝鮮みたいに人集めてるのは。学校ですね。学校では全部ロシア語。朝鮮語の学校も一時ありました。64 年まで。朝鮮語ですが、内容は全部ロシアの翻訳。一時はですね、師範学校、高等師範学校ではなく、師範学校もありました。昔は教員大学 2 年制だったんですけど、師範学校になって 4 年制になったんですよ。今は、サハリン国立大学、ビジネス科とか、韓国語も勉強できますし、日本語も英語も。

—— 少数民族保護政策というのは朝鮮人に対してはありましたか？

崔：何にもありません。僕たちは権利というものは何にもありませんでしたから。無国籍のパスポートを持って、自分の住んでいる区域を出られないんです。許可がないと出られません。そういう限られた。それは自分自身が体験したことですけど。（中略）

—— 戦後のサハリン社会で朝鮮人はどんな立場にありましたか？

崔：共産黨員になった人もおりますし、国会議員になった人もおりますし、市長、議員になった人もおりますし。差別も一般的にはありませんけど、僕たちは目に見えない差別はあるでしょ。あるところにはあるはずです。

—— 日本時代には差別はありましたか？

崔：日本時代は朝鮮人は、高等学校、大学には行けない。大学に行くには日本人になりきらないといけない。なまりのない言葉で。例外ってのもありま

したけどね。

^{バクデギル}
朴大吉（日本名：大山大吉）は、1928年2月8日、京畿道水原郡生まれである。彼は、戦後のロシア人と朝鮮人との関係を次のように語っている。
— 家庭ではハングルを使っていたのですか？

家では韓国語を使っただけ、友達とは日本語しゃべっただけ、鉄道（会社）に行ってからでは、日本人と一カ所にいたんだから、日本語を使わないと、話し相手いないから。家に帰ってくるのは2・3カ月に一回くらい。運転手の時は、ロシア人と働いているから、ロシア語。

— どの言葉がいちばん使いやすいですか？

朝鮮語と、日本語ですね。家では朝鮮語です。僕が28年（歳）だから、37・8だったらもう朝鮮語は知らないですね。でも、8年間朝鮮学校があって、廃止されたんです。それが60年度かな、廃止されるんです。日本語のわかる朝鮮人はたくさんいます。会ったら朝鮮語は使わないんです。80%は日本語を使ってた。

— 職場には他にも朝鮮人はいましたか？

朝鮮人の運転手というのは、ほとんどいなくて、80%はロシア人。

— 給料に格差はありましたか？

向こうから来た人はね、第2次世界大戦に参加したし、大陸から来た朝鮮人も、僕たちの倍貰うんです。運転手の給料はたいしたことないです。120ルーブルくらい。同じく仕事をしながら彼らは倍もらうんですから。僕らは（サハリンに）残りたくて残ったわけでないし、ロシア人はロシアの国籍を持っているし、第2次世界大戦には参加したし。自分たちは何もやっていないから。ロシア国籍をあのときにもらっていれば。90%は、何もないです。

— ロシア人には従軍経験者が多かったのですか？

たくさんいました。昔北朝鮮からロシアにいった人たち、あのひとたちは完全にロシア人になっています。（1937年に）ウズベキスタンにスターリンが連れて行った人たち、あの人たちの祖先。全部、先生とか。そうじゃなかつ

たら、ロシア共産党の幹部とかね。新聞社の社長とか。当時はね、仕事はね、みんな汚い仕事は全部朝鮮人。今は違いますよ、ロシア人が全部。僕の家でも長男や次男、専門学校や大学を終わってますからね、全部エンジニアになっているんです。お祖父さんは、便所掃除みたいなことをしていたけど、いまは違います。

そして、サハリンのなかでの朝鮮人組織について、次のようにも語っている。

——サハリンに朝鮮人の組織ができたのはいつからですか？

85年から、ペレストロイカから。その前はなんもなかった。サハリンに新聞社が設置されたのが、1960年だか、「レーニンの道」とかいう新聞があって、「新・高麗新聞」になって、新しい新聞、いまでも出ています。で、全部発行するのが、共産党員だしね。

私たちが下手な真似したら、3・4人集まって話していたら、すぐつかまります。何の話したんだ、どうして集まるんだって。それはきびしかったですよ。我々の知恵ってのは、日本とか韓国のラジオは聞けないんだけど、2・3時になったら、聞こえるのは全部日本の放送、毎日聞いてました。70年度から各都市でね、朝鮮人たちの組織を作りなさいって、各都市でもって朝鮮人たちが集まって、サハリンはどういう状態だとか、南韓国はどうなっているとか、全部、宣伝です。大泊にずっと住んでいたけど、一年に一回くらい集まります。

85年から、こういう手紙が届いたとか、本が届いたとか。豊原に本部がありまして、各都市へ伝えが来るんです。「老人会」。僕たちがここ（安山）にきて、これを作ったんです。サハリンにもあるんです。離散家族会というものもあるし。離散家族会というのは、主な仕事と言うのは、韓国に対する問題、帰国問題、一時サハリンを訪れるでしょう、呼びだし問題とか、全部あそこでやってるんです、今は。元はね、何かあったらナホトカまで行かないといけなかったけど、今はサハリンにあります。今は便利ですよ。で、すべての

問題は帰国問題とか、一時期帰国ね。離散家族会に申請すれば帰ってきます。80 年度から、パクノハク（朴魯学）という人がいたんです。あの人にたくさんの手紙が来たし。一時は帰国の許可まで下りて来たけど、あんまり全部やるもんだから、止めてしまった。90 何年だったか。日本の妻を連れて帰って、でも、他の人はいないでしょ。日本の妻っただたら帰れた。

— パクノハク氏とは面識があるのですか？

はい、大泊で運転しているときに、70 年代に大泊に来ました。あの人はもちろん徴用で来たんでしょ。あの人を知ってました。あんときは、友達として、一カ月に一回くらい床屋に行くもんだから。活動していることは聞きました。

— 都万相事件についてはご存知ですか？

家族全部、連れて行かれてね。その人の娘の婿が、残ったんです。今はここに住んでいますよ。北朝鮮に行ったんだか、ロシア人がなんかしたんだか、わかりません。今まで、何の便りもない。

— 当時事件のことは耳に入りましたか？

聞きました、それはもう、大泊ではひっくり返るくらいの事件が起きたんです。旗をふりながら、日本へ返してくれと。ロシアの方では、お前は朝鮮人なのにどうして日本へ帰るんだって、北朝鮮に帰るんだろうと。見てはいません、話です。豊原にもそういう事件があったし、大泊にもあった。また、そういう話をしても危なかった。韓国に戻るのには難しいと実感したんです。

「無国籍」問題について^{イムジョンソン}任宗善は詳しく語っている。彼は、1930 年 9 月 29 日済州島生まれである。

— ソ連時代はどうでしたか？

うーん、普通の人たちとは仲良かったですよ。だから、僕たちが苦労したっていうか、僕たちは無国籍だから。そしてロシアでは、そういう担当の警察官がいるんですね。その人たちが馬鹿にしますから。行くと見るんですよ、頭の黒い人見ると、パーっと来るんだ、バス止めて、上がって来て、頭

の黒い人だけ、パスポート調査するんですよ、ロシア人の人は黒い人いないからね。それとやっぱしね、一番、なんていうか、馬鹿にしているってのは、僕がおっきくなってからなんだけど、ぼくたちのいるところからね、ハムトーって村があるんでよ、部落が、そこに甥が暮らしているんですよ、甥がいつも来るんです。甥はロシアのパスポートを持っていたから、自動車を持っていたんですよ。遊びに来ましたよ。街の中を通って行くと、時間がかかるのはわかっているんですよ、したけど、僕たちの方からまっすぐ、なんだ、トロイツコエ、そこへ行く道を行けば30分から1時間くらい節約できる。行くんだけど、その途中で、アニワ湾のところを通っていけないんですよ、いつも警察官が立ってから。そういうことなんです。そしてから、腹たつけど、仕方ないんですよ。仕事は、なんとというか、韓国人は仕事をよくするんですよ、だからね、会社の方では韓国人をよく見てくれるんです。だけど、このこととパスポートのために苦労しましたよ、結婚式とか、分かっている(知っている)人が死んだとか、葬式とか、行けないんですよ。なぜなら、結婚式なんか、一週間前に願書を出さないとだめなんだ。こういう理由で行くから、許可してくれって。だけど、その人たちの気持ち一つで、いいってときもあるけど、だめなときもあるんだ。僕たち賄賂のことなんか考えなかったね。賄賂ってお金でしょ、そんなお金ないですよ。その日暮らしで、給料もらって、子供たちと食べているってあれだから。

働くのはね、どこでも良かったんですよ。ただし、始めのうちは、70年までは良かったんです。69年度かに僕は会社に行って事務をとるようになったんですよ。やっぱり大学を出ているってことで。そのころ大学終わっている人、大していなかったから。大学では国籍は関係なかった。試験に受ければ誰でも行けた。

— 北朝鮮国籍は取得しましたか？

北朝鮮は行けたんですよ、国籍なくても行けたんですよ、北朝鮮は。そういうことあったんですよ。僕たちもいつかな。50年度くらいかな、北朝鮮から来て宣伝もしたし、映画なんかも持ってきて見せてくれたし、だから、朝

鮮の小説なんか持ってきて、売ってたし。朝鮮、同じ朝鮮だから行ってもいいんでないかって、国籍をもらったんですね、もらって見たところが良くなかった。もらったところで良くなかった。それであとで、捨てちまって、そして今度、無国籍に戻って。いつかな、55・56年にもらったのかな、記憶ないけど、無国籍になったのは、僕大学入ったから、そのころかな。

— どうして北朝鮮国籍を放棄したのですか？

理由は簡単なんですよ、僕の分かっている（知っている）人がたくさん、北朝鮮へ行ったんですよ、それで聞いたところ、苦勞してるって。苦勞するところわざわざ行く必要はないって。ロシアでは食べ物とか、仕事とか、不自由ないから。仕事して金儲けて、なんでも買って食べることも出来るって。それに、話聞くと、北朝鮮の人たちは、僕たちがサハリンで受けているようなパスポートの制限があって、どこでも行けないって。ロシアはもう、ロシアの国籍のある人はどこでも行けたから。僕らは無国籍だから、どこへも行けなかったけど、北朝鮮は話を聞くと、北朝鮮の人たちも動けないって。そういうこといろいろ考えて、だめだろうって。ロシアのどこ行って、パスポートを無国籍にしてくださいって。北朝鮮へ行った人、いっぱいいるんですよ、手紙なんかダメなんです、行った人たちは子供たちからいろんなこと聞いてくるんですよ、聞いて来てはサハリン来て話すんですよ、あそこはどうだ、食べ物はどうだって。サハリンからね、子供たちが北朝鮮へ行った人があるし、友達が行った人もいるし、みんな会うんですよ。話しているうちにそういうこと秘密なんだけど、秘密なんだけど、そういうこと少しずつ漏れるんですね。来ては、僕たちに話してくれると。

— 若い人を中心に北朝鮮へ帰国したのですね。

若い人たちが行ったんですね。そんなとき僕はわかんないけど、若い人だけ行ったんですよ、若い人たちを、宣伝してさ。大学とかね。

— 家族全員で帰国するようにはすすめて来なかったわけですね。

言わなかったね。だから、宣伝するってどうするかっていうと、10年終わらなくていいと、9年でいいと、北朝鮮へ行けば、みんな大学に入れてやるっ

て。みんな勉強したくて、行ったらいいですね。やっぱりロシアもそうだけど、宣伝がいいんですね。そして、その宣伝に乗っていったら、子供たちが行った人たちの親たちが、北朝鮮へ行った人たくさんいるんですよ。

— 北朝鮮へ帰国しようと思ったことはありますか？

はじめはそうだったんですよ。なぜなら、僕の考えでは、北朝鮮も朝鮮ですね。まだ若かったから。北行ったら、どうにかなるだろうって、北朝鮮籍を貰ったんです。したけど(だけど)、話を聞いたら、もう、僕はもう家族も、子供たちが生まれて、行っても苦労するような気がしたから、ここで子供を育てたらいいなって、子供たち、大学を終わるようになったか、入る時に、無国籍にしたと思います。ここで勉強すれば、ここでもどうにかなるって。

— ソ連国籍はなぜ取得したのですか？

それはね、国籍ないと辛かった。そのころたまたま日本の企業がたくさん入って来たんですよ。通訳に何回か、行ったんですよ、そして僕わかんないんだけど、千島へ行くことになったんですよ、話したところが、願書を作ってくれて会社で、この人は無国籍だけど、千島へ行かないとだめだって、許可してくれって、その願書を持って警察へ行ったんですよ。そしたら、なしで(なんで)こんな苦労するのかって、ロシア国籍出しなさいって、そう言うんですよ、ああ出せるんですか、と。なぜなら、それまで10年以上、ですね、いろんなもう願書を出したんですよ。政府にも出したし、そのころブレジネフですね、ブレジネフにも書いたし。いろんなとこ書いたんですよ。それでも、駄目なんですよ。そのとき、ロシア国籍出しなさいって、そのとき言われたんですよ。そしたら、出した方がいいなって、なぜなら、通訳やると、あちこち行かないと行かないといけないから。それから、あちこち。

— ソ連時代はどうして国籍が取得しづらかったのでしょうか？

サハリンでは僕たちの歳では、あまり取れなかったんですよ。なぜなら、よくわかんないけど、話を聞くと、日本語わかるって、日本の勉強したってことで、若い人たちはとれたんだけど、親はとれないんだよ。だけど、うちの娘はイルクーツクの大学で勉強して、そこでとったんですよ。僕たちにはく

れなかった。

何故なら僕たち年上の人たちは、みんな無国籍なんですね。戦争でも始まったら、言葉がわかるから。そういうことでないすかと思いますよ。話聞くと、僕たち手紙出すでしょ、日本へ。そしたらみんな KGB へはいって、みんな開けて読んで。なぜなら、もう亡くなっていない人だけだよね、僕の友達がロシア国籍で、なんちゅうか、共産黨員なんですよ。それで一回呼ばれたらしいですよ、KGB に。お前注意しないとイケないぞって、お前の兄さんが日本に手紙を出しているって、できるだけ手紙を出さないようにしろって。サハリンに自由に行けるようになったのは、ペレストロイカからで、それで、日本の人が通訳を欲しがったね、日本の人は日本語しかわからないから。そういうことで、僕たちも働くようになったんですね。

最初からくれないわけではないですよ、最初はくれたらしいですよ、だからもらった人いますよ。むかしの年頃のひとたちは無国籍のひとたちが多かったですね。もらった人もいるけど。何がぼくたち、なんていうか、ソ連の国ですよ、だめだと思ったのは。僕が大学を卒業したとき、そのときサハリンに大学なかったから、大学を出ているって言うので、僕にある会社で、きみ事務をとってくれないかと、それで事務をとるようになったんだけど、71 年度に大学を終わって、仕事するときに、急に、きみ他の課へ移らないかって言われてね。僕はなにしているかという、研究所というか、新しい機械を作ったりするところで、仕事をしてたの。大学終わったばかりだということ。機械のことわかるって。急に社長が呼んで、きみ別の課へ移らないか、事務の方にとって。僕はそういう嫌いだから、いやだって言ったんです。そして、結局いやだって言うから、出されたんです。それで他の会社へ行って、会社行って今度、卒業証書見せて、どういう仕事をしたかという履歴書も見せて、きみならいいって、言うんです、そこで、人事課ですね。パスポート見せれて、パスポート見せたら無国籍でしょ、いいから明日来なさいって、社長と話してから、引き上げるって。次の日行ったら、昨日、社長が他の人と話して、決めてしまったって。そして、何カ所か歩いたわけ、そした

らみんなそういう条件なんですよ。後で聞いたら、無国籍でいい仕事をして
いた人はみんな出されたいですよ。また昔のように機械の方に行ったん
ですよ。やっぱり会社では見てくれるんですよ、この人は大学終わったし、
わかってるところもあるからって、見てくれるんです。労働やっても、激し
い労働の方は行かせないで、楽な方へ、機械を見るとかそういう方へやって
くれるんです。仕事は楽だった、同じ金をもらっても、他の人よりは。

— ソ連国籍はいつ取得したのですか？

92 年だね。そのときはすぐに出してくれたんですよ。それよりも、サハリ
ンの知事がいたんですよ、ソオロフっていう。ゴルバチョフがやって、ソ連
が崩壊して、そのとき。それまでは大学を出てもくれなかった。そして、大
学終わって、ソ連ではどういうことやったかという、大学終わると、どこ
どこ行けて、決めてくれるんですよ。どの町のどの会社に行けて。体だ
け行けばいいんですよ。職場もあるし、宿舎もあるし。ロシアの無国籍って
のは大学ではないから、してくれるんです。して来たのが、サハリンだと、
駄目なんですよ。話聞くと、そのとき第 1 書記が、リョーノフだったんです
ね、その人が、朝鮮を大して嫌いだったらしくて、その人が命令したらしい
ですよ。無国籍だとか、外国籍の人は指導する職業につけたらだめだって。
だけど、社長たちは、そういうこと言えないんですよ、僕たちに。人種差別
とかそういうことだから、ああだ、こうだって言うんだけど。おかしいなっ
て。で、ロシア人たちも仕事しないんですよ。全部、国有財産でしょ、工
場から何から。仕事っても、8 時間つとめればいいって、それだけなんす
よ、だから仕事しないんですよ。僕らたち、上の方で少し、ぼくたち見てく
れているもんだから、わかるんだけど、一つの工場で、計画が来るんですよ、
自動車 100 台作れって、簡単に言う。そしたら、仕事うまく行って、102 台
作ったと、100% 以上ですね。そしたら、社長はどうするかって言ったら、私
は 100 台作りましたと、あと 2 台はとっておく。なぜかっていうと、何か起
きたりすると、少なくなるから、そのためにとっておくんですよ。そういう
ことするんですよ。

^{イギジョン}李起正（日本名は^{さだやま}完山，ロシア名はアレクセイ・ミハイロビッチ）は，1931年9月16日，樺太の知取生まれである。彼は，ソ連共産党員になり，戦後のサハリンでは成功者である。

— ソ連時代は無国籍状態のままだったのですか？

ソ連の国籍をとりました。52年か，53年ですね。早くもらったんですよ。勉強するようになったし，大陸に行くようになって，国籍がなかったら，許可されないんですよ。樺太以外はどこも行かないんですよ。

— 進学のためにハバロフスクに行く前に国籍をとったのですね？

そう。54年にハバロフスクへ。

— ハバロフスクでは，朝鮮人と言うことで，いやな思いをしたことはありましたか？

別にそういう点はなかったですね。いじめられたとかそういうことはなかったです。ロシア人の友達を作って，そこで一緒に暮らしたんだから。

— 当時国籍をとるときは，家族一緒に取得しなければならないとうかがいましたか？

そういう話もあったんですけど，お父さんは51年度に亡くなっていたので，お母さんと一緒に，僕は三男で，長男は早くに結婚して，家族を持つてから，一緒に住んだんです。

— 89年と言うと，在サハリン韓国人の帰国をめぐる話が出てくるころですね？

そうですね。55歳で年金をもらって，60まで仕事をしてたんだよ。そして，そのあと，クラブの中にね，日本語講習会があったんですよ。その教師をやっていたんです。大泊で。年金もらったあと。そして3年して，そのあとは，船乗り，通訳。

— 日本語講習会はどんな人が受講していたのですか？

だから，昼は学生，15・6人くらい，あの頃はみんな日本語を習いたい気持ちがあったから，そして夜間は，やっぱし，仕事をしている人たち。40人くらい，2グループ，20人20人。ロシア人，韓国人もいた。あんときは日本

と。

— ロシア名は持っていらっしゃったんですか？

私はそういう、責任者になると、部長と課課長になると、ロシアの名前がないとだめだと、アレクセイ・ミハイロビッチ。アリョーシャ。それはね、マカロフにいるときは、ロシア人につけられたのは、コーリャだったんですよ。そして、大泊で移った時に、兄さんも二男の兄さんもコーリャだったんですよ。都合が悪いということで、お前の名前を変えれと。それで兄さんがそこに住んでいて、自分はみんなコーリャってわかっているから、名前を変えてほしいと。そして今度、現場ですすね、掃除婦が、ロシアの女がいたんですよ。名前を付けたいんだけど、こういう名前はどうかって、僕に言うんですよ。今はニコライだけど、変えてくれって言ったら。彼女が、だら（そしたら）、アリョーシャがいいって。国籍は関係ないんですよ。

— 責任者として、書類にサインするときはロシア名を使うんですか？

ロシアのサインです。なんせ、銀行の書類なんて、課長部長の僕たちのサインがないと通らないんですよ。そういう意味で、ロシアのサインを使うようになったんです。（中略）

— 共産党には入党しましたか？

責任者だから、必ず党员でないと。だから早くから、僕は 57 年度から。青年共産党、コムソモールで働いていたんです。その課長をやっていたんです。52 年度にロシアの国籍をもらって。

そして戦前の小学校時代の思い出としては —

— 小学校のときは、朝鮮人同士が仲良かったりということはありませんか？

別にそういうことはなかったですよ。僕たちは言葉もしゃべれるし、喧嘩したって。ただ、悪い言葉は、チョーセンナツパ。野菜の、キムチのナツパ。匂いがするってことで、臭くてくさくて食べれないって。

— 日本人のことをチョッパリ（豚の足）って呼んだことはありますか？

チョッパリ？ ありました。親たちがそう言って、言いますよ。そうする

と、あのチョッパリたちがって、なりますよ。悪口だってわかってますね。だから、やっぱし日本人の前では言わないんだから。自分たちの家族・友達、韓国人たちとは、言っていました。終戦後ですね。終戦前はそんなこと言ってませんでした。終戦後にやっぱし。学生時代は、そんなそういう差別する気持ちもなかったんでないか。その頃は差別されてなかったし。

——知取には朝鮮人が集まって暮らしている地区はありましたか？

ありました。二カ所だね。知取の松ヶ枝町、そこには朝鮮人が多かったです。漢字なったらわからないけど。あんときは町だからね，улица(通り)が。それから川北。ここが，韓国人の多い，90%か95%くらい住んでました。僕たちは中央に住んでました，栄町。漢字では忘れたけど。いろんなところにいましたけど，多数は，はじっこのこういうところに。川北は海の方ですよ，鉄橋の下ですから。鉄橋の下にあったんです。栄町は町の真ん中に，私はそこで住んでいたんです。松ヶ枝は山の方。

——ソ連は多民族国家ですね。サハリンには，所謂「ロシア人」以外の民族も来ていたと思いますが，彼らへの親近感のようなものはありましたか？

民族が多かったんですよ。別に，「ロシア人」で。で，またカザフスタンとか，ウズベキスタンとか，東洋人に似てるんだよ。だから，彼たちと近い，そんな感じがね。彼たちもね，そう感じて，つきあいやすいような体でした。ロシア人との差別が少しあってね。東洋人，アジア人っていうんだな。カザック，ウズベックとか。別にそういう区別はなかったんです，でも，僕たちの考えでは，ロシア人たちより付き合いやすいんでないか，って，僕たちの考えだけど。アジア人はアジア人でないかって。彼らはソ連国籍です。91年までは。

——ソ連崩壊についてはどのようにお感じになりましたか？

党員だったしね，分かれたらだめじゃないかって。やっぱし，(国は)一緒にでなかったら駄目でないかって。分かれたときに。一緒になった方がいいんでないかって。僕は，エリツィンを支持した。ソ連は続いた方がいいかってなって，その時は。後で考えてみると，自分たちの国を探して，独立する気のあ

る国は、独立しないとだめでないのかって。それは、後ですね。急にそんなみんな分かれるってなったときは反対しました。党员だったからなのか。まあ、そういうですね。共和国を残した方がいいんじゃないって。でも、独立したいって民族は独立した方がいいでないかって。

— 共産党员として特別な仕事をなさったことはありますか？

なんて言うかな、建築会社の責任者をやったことありますよ。91年のあとにも残れって党员たちで会議をしたこともあるんだ。そのあと、船乗りするようになってから、ああ、92年に解散されたでしょ、それで僕たちは出て来たんです。

— その後にできたロシア共産党には入らなかったのですか？

別に入ろうとは思わなかった。党员証は持ってたんだけど、韓国来るときに捨てちゃった。もう必要ないって。これは別に言わなくていいことなんだけど。正直に言いたいんで。あなた達の前で。共産党入っていたって言って、喜ぶ人間いないんだよ。党员で、ロシアで責任者の仕事やったって、別にそれは言わなくなったんだけど、あんたたちが歴史に対して知りたいっていうから。仕事が仕事だったし、使っている人も多かったし。会社の時は40人50人、部長になった時は、100人くらい。ロシア人の前でも大きな声を出せましたよ。党员だったし、課長部長になるにも、党员にならないといけないし。

— A・クージン氏（朝鮮人問題の研究者）はご存知ですか？

ああ。知り合いではないです。彼は州の。僕はコルサコフ。大きな大会とかある時は見ることもあったけど。本は読んだことある。別に、なんでもないよ。事実としては間違っていないけど。感心するって言うのは、そういうのはないです。（中略）

— オリンピック観戦の時等は、日本と韓国、あるいはロシアのどの国を応援しますか？

やっぱりね、日本のチームがやる時はね、日本を。自分でも不思議な点がありますな。日本のチームが勝ったらいいんでないかって。やっぱり、小さい時からそういう教育を受けたんだか、そういう気持ちがありますよ。残っ

てますよ、大会とかみたら。バレーボールとか、日本チーム強いですよ。ここ来てからは、韓国も。サハリンいるときは、日本チームを余計に応援したい気がしました。教育がそうさせるんだか。自然に出てくる。やっぱし、日本のチームったら、勝てばいいなって。不思議だね。自分でもそう思う。何の意味で、自分は応援するのか。ソ連はだからね、自分たちが住む国だったけれど、そんなにも、やっぱし、アジア人だっちゅう意味なんだか、自分でも不思議に思ってますよ。小さい時の教育を受けたためか、いい点が多い気がするわ。いまでもそう思ってます。

だからあんたたちも、将来歴史に対して研究すると思うから、心にあることを言ったんです。僕は。党员ったら、普通喜ばないんだよ。こういう風にあなたたちが研究しているから、思っていることを言いました。正直に自分に思ったことを言っているんだから、自分の生活したこと、自分にあつたことを正確に言ったんだから、心配しなくていいですよ。

^{イビョンオク}李炳玉は、1933年4月22日に樺太の西柵丹に生まれている。兄の^{イビョンリユル}李炳律も有名である。彼女は、なぜ韓国に帰国したのかについて、率直に語ってくれた。

— 60年代はどうでしたか？

良かったね(良かったね)。スターリンがいなくなったから。フルシチョフも、ブレジネフになってから良かったね。マレンコフも、まあ、ちょっとあれしたけど、ブレジネフが一番、長くしたしね。

— 北朝鮮からの帰国の呼びかけというのはありましたか？

あつたね、嫁に来てから、同じ朝鮮人だからなんだけど、お母さんが行くなって、だから一回も行きませんでした。今思うと一回くらい行ってもよかったかなって。

— 周りで、無国籍と言うことで不利益を被った人はいましたか？

ちょっとそういう話は聞いたよね。誰がだかはわからないけど。ロシア国籍持っている人方はいい生活をしていたみたい。共産党员ではなくてもね。

うちの兄さんも共産黨員になっているんですよ、みんなねいい職場をもらいたくてなっている人がたくさんいた。頭がいい人は下になって働きたくないからって。部長とかは、朝鮮人にはなれなかったよ。そういう韓国人も、悪いことしたわけじゃなくて、いい職場とりましようって。

— ソ連時代は教育、医療は無料でしたよね？

ただだった。

— 帰国願望はありましたか？

ありました。日本へ行かさればもっといいのにつて。日本時代の思い出があるから。日本に帰ればいいのにつて。韓国に帰るって言うのは、うちの主人も、その前にうちの息子も、あ、ペレストロイカした後、今度は手紙も行ったり来たりし始めてね、そのときまでは、樺太へ日本人の観光団の人がくるでしょ、近付きもしたらだめだったんですよ。近づいたら、何の話をしたんだって。したから、遠くでわざとみたんですよ。ペレストロイカからはね、手紙のやり取りを始めたしね、うちの夫、恵須取と一緒に楽団をやっていた日本の歌手がいるんです、いまでもいます、手紙が来たし。

— 日本にお知り合いがいらっしゃるのですか？

うちの夫はね、旭川、ショウノマサヒコさんて人、恵須取の一緒の小学校だし。何回も、二回くらい行ってきました。

— 韓国に対してはどのようなイメージを持っていらっしゃいましたか？

オリンピックの後がね、ラジオも聞かれなかったんですよ。布団かぶって、日本のラジオを聞いたんですよ。テレビとラジオを聴くのは全然違うのね。それで、夫が絶対に外で言ったらだめだって、だから秘密で守っていたんですよ。日本のラジオも聴いていたから。88年のオリンピックの後がね、韓国がこういうところだってわかったんですよ。ペレストロイカの後がね、引揚、韓国に行きたい人は韓国に行きなさいってなってね、私は韓国へ行くよって言うと、その前にな、うちの息子が韓国へ何度か行っているんですよ、仕事でね。息子が言うのは、韓国は乞食がたくさんいるから、母さんみたいな人がいたら食べていけなくて死ぬって、民主主義だからそんなことないって、

こっから引揚たらそんなことないって、いやあ母さんそんなことないって、
乞食いっぱいいるって、びっくりしたって、うちの夫も行かないって言うの、
(そ)したら私一人で行くから、あんた残んなさいって、荷造り始めたの、そ
したら来たの、98年に、仁川に、夫とふたりで。あのとき(仁川は)80軒。
— 永住帰国を決心したのはどんな理由からですか？

インフレになってしまったしね。空がね真黒になったんです。これくらい
の金があったら、子供結婚させて食っていけるっていうのが、紙になってし
まった。空が真黒になってしまった。一日でも早く、どこかへ行きたい気分
になって。それから、ここへ引き揚げたんです。98年度に来たんです。(中略)
— インフレ時代はどうでしたか？

やっぱりね、生活は生活で固くなってたから、お金なくしたし、おかしく
なった。

— インフレの影響で亡くなった方はいらっしゃいますか？

そんなことは聞いたことないね。そんなことないけど。もう、いやなって
来たね。

最後に彼女は、「родина (故郷) はどこだと思っていますか？」に答えて —
日本時代は日本に暮らしていたから、日本がローディナと思ってたけど。
こっちきたら韓国。子供にはすまないけど。

ひとつねお願いがあるんですよ、日本時代に一緒に歩いた(勉強した)友
達がいるんですよ、訪ね人で出したことはないんですけど、北海道にいるっ
てことはわかっているんですけど、あの、そこにね、シモダミサオって人が
いて、一回かけたら、出ても来なかったけど、ノムラスエコって人がいるん
ですよ、同級生なんですよ、その人の兄さんがね、タボ、うちの二番目の兄
さんと同級生なんですよ、そのタボがなくなったんですよ。その下がノムラ
ユキコ、その下が、スエコさん、スエコさんが今いるんだろうか、いないん
だろうか、北海道なんです。ノムラスエコさんがね、一緒に学校で勉強して
いました、農業の方で暮らしていました。叔母さんも今頃なくなったっでしよ

うね。ノムラトシコが一番下にいるんです。学校へ行っても、母さんの乳飲んでたよって子なんです。スエコさんは頭もよかったんですよ。いま生きているんだか。声でも聴きたい。

と語っている。「ノムラスエコ」さんに心当たりのある方は、ご連絡下さい。

^{キムトヨン}
金都榮は、1933年10月15日に、樺太の知取に生まれている。ここでは、朝鮮学校の話が少し詳しくわかった。

— お父さんは、戦争終わるまで炭坑で働いてらしたのですか？

炭坑で働いていた。

— 戦後はどうになりましたか？

ソ連の軍隊が入って来てから、1946年にサハリンに朝鮮学校をお父さんが建てて、お父さんはそこで。

— 朝鮮人の組織はありましたか？

それがあったんです。お父さんは、フジモト・キンタロウです。韓国名は、キム・ソッキ。

— その朝鮮学校はどこにありましたか？

白浦。あのときは4年生まで。一年から4年。

— ハングルを教えだしていたのですか？

そうそう。

— 戦時中は日本語教育を受けていたのですね。

そう。

— なぜ戦後になってハングルの教育を始めたのでしょうか？ 韓国へ帰るというつもりだったのでしょうか？

そうですね、みんなそんな気持ちを持っていました。白浦からでたのが、47年度、ドーリンスク、落合ですね。落合で2年くらい住んでから、ユジノサハリンスク、豊原ね。そしてそこでまた、2年くらいいてから、49年、コルサコフ。そこで、朝鮮学校7年終わってから。

— 朝鮮学校に学生は集まったのですか？

そうですよ。お父さんは白浦で、学校を作って、大泊は別の方。したから、そのとき樺太では一番先に（白浦で）朝鮮学校っていうのができてから、47年度頃にユジノサハリンスクに朝鮮学校を建てて、同じ年に大泊に。今はないんですよ。61年度に亡くなったんです。

— 朝鮮学校はどうして閉校していったのですか？

そのころあっても必要なかったわけさ。社会に入ったらみんなロシア語だから。

ジャンイムサン
張日三は、1933年12月3日、釜山生まれである。「ソ連国籍」を取ったことを、次のように語っている。

— 大学入学のためにソ連国籍を取得なさったのですか？

53年に父さんの説得で、兄弟みんな反対したんだけど、ひとりでもらうことができないから、みんながもらうから、家族会議をやって、父さんが説得して、この子のためにお前らが犠牲にならないとだめだべや、と。そういう話をして、姉が泣いたりわめいたりして。

一番初めでしょ、家が。もっとね、初めにみんなもらいたくないって人が多かったでしょ。それでもって、ロシアの国家ではどうぞって、傾向がありました。願書を出してから、半年くらいかかったけど、申請すれば、もらえました。家族で会議した時は、大学に入るっていうのが一番の理由。

— ロシア国民として、徴兵されたりはしましたか？

私は歳の関係で、徴兵には行きませんでした。大学では教練をして、大学を出るときは少尉でした。兄弟で軍に行った人はいません。徴兵ってのはね、うちにはいません。兄さん方は歳は上だし、私は大学生だから、免除。

— 大学卒業後はどうなさったのですか？

大学に終わった後、3年間モスクワの化学の工場でもって、働きました。それは義務で、大学を終わったら2年か3年義務で、働くんです。うちは貧乏で、生活を維持できないような家庭の状況で、母さんも何回も手紙をよこして、私もわかっていたんだけど、仕事をする人がいなかったから、仕方な

く、サハリンへもどって。60年に大学を終わって、63年にサハリンに。ユジノサハリンスクに。

— 卒業後の職場では朝鮮人は他にもいましたか？

私のね、工場はね新しい工場で、二、三千人働いていて、黒い髪のひとはいたけど、韓国人とか、朝鮮系ってのは私一人。みんな珍しくてね、どっから来たんだって。

— モスクワとサハリンではどちらが、自分が朝鮮人であると意識しましたか？

モスクワでは差別なんてなかったし。サハリンいるときの方が、まだ言葉もわからなかったし、やっぱりモスクワあたりは文明が、レベルがもっと上でしょ。サハリンに来ているのは、向こうから来た労働者あたりだから、知識的に大したことないし、なんだかっていったら、偏見が強かったし。その偏見がモスクワに行ったらなかった。

戦後の引き揚げについても次のように語っている。

— 戦後に日本人が引き揚げていくのを見て、どう感じましたか？

私はね学問ができなかったでしょ、私たちがもっと早く行けると思ったんだけどね、韓国へね。みんなそう思っていたんですよ。疎開行った後は、さびしかったです。豊原の日本人の友達とは、その期間を逃してしまったね。一人見つけて、手紙は書いたけど、何人かは手紙を書いたけど、返事がないね。

— 戦後は、朝鮮人の人たちの間では、すぐに帰国できるという期待があったんですか？

みんなすぐに韓国に帰れると思っていて、うちの父さんなんかも、一週間待ちましょう、一カ月待ちましょうって、すぐに帰れるだろうって。お父さんは本当にロシアがいやで、父さんは本当に（韓国に）行きたかったんですね。噂ってのもなかったけど、期待していたんだね。日本は負けたし、韓国は負けてはいない国だから、もっと先に行くだろうって。数でいっても少な

いでしょ。韓国人は。船が何隻かくればすぐに帰れるって考えて。みんなすぐに帰れるって思ったんじゃない。それが一年たち、二年たち。あんときはラジオも何にもなかったでしょ。で、あきらめて。ソ連からの移動させないってのも、なかったんだよね。今になったら、スターリンの政策ってのが、国が大きいでしょ、こんな安い労働者がいますか、仕事もよくやるでしょ、スターリンにしたら宝物だよね。ぱって言ってたら、なんでもやったんだから。帰りたいって言えなかったんですよ、そんなこと聞いたら、KGBってのがあって、誰かそんな噂を言ったら、何かきいたらすぐ、いなくなったんだから。KGB もできたのは46・47年だね。民政が変わってから、KGBってのが出て来たね。

— お父さんはいつごろ帰国をあきらめたのでしょうか？

父さんがもう行かれないよって、言ったのがね、49年あたりから。諦めなさいって言ってました。日本のラジオからだめだってことがわかって。

— ソ連側からは朝鮮人の帰国について何も話がないんですか？

ソ連政府は、無視したっていうのかな、なんも相手にしない。それに KGB あたりは、大学を終わった人とかを連れて行ったりしたもんだから、みんな恐ろしくて、自分の気持ちなんて、表すことはできなかった。韓国に帰りたいとかって、言える雰囲気ではなかった。

また2・3回そういうことがあったでしょ。大泊で帰りたいって騒いで、それでもって彼らは別のところへ隔離されて(都万相事件)。だからね、みんな勇気のある人って少ないんですね。みんなおそろしく、みんな誰も抵抗することができなくて。

— 北朝鮮からの国籍取得や帰国の呼びかけはありましたか？

国籍を取った頃には、北朝鮮から運動がありました。お父さんは北朝鮮国籍には反対。あんときやっぱり、北は行く必要ないと。噂もあったし、父さんは社会主義が好きでないってこともあったしね。北朝鮮の領事からがやって来て、宣伝宣伝で、若い人方、100人くらいかな、金日成の大学に入れてやるって。北朝鮮から戻って来た人もいます。あの当時行った人は誰ももどつ

ていないでしょ。

^{コチャンナム}
高昌男は、1935年11月2日に、樺太の知取に生まれている。「故郷の村」の老人会の会長で、モスクワ大学で博士号までとっている。一度、戦争末期の「緊急疎開」で函館まで行くが、密航船で樺太に戻っている。戦後の朝鮮学校については、次のように語っている。

46年から51年に、大水があったんです。家が流れてなくなって、そして、隣の町、村というのか、泊岸というところ、ガステロの上に、泊岸という町に移ったんですね。そこで住みました。そこで私はロシア学校に、私は朝鮮学校にも行ってるんですね。日本学校で4年まで勉強して、戦争の直後には。ガステロには日本学校があったのかわかりませんが、朝鮮学校っていうのができて、学校っていうのは名前だけで、先生というのはいなかったですね。ハングルというの、わかっている人に習いました。先生というの、字をわかっている人が、韓国のハングルを分かっている人が教えて、漢字とかも教えて、数学は一年二年の数学をやって、そういうのを教えていました。そして、朝鮮学校っていいましたが、朝鮮語は全然できなかったですね。私はまだ日本語。漢字を少し覚えて、漢字だけは、いま残ってるんです。そこで、4年間、48年に私は初等学校4年終わって、形式で終わって、47年度にポロナISK、敷香に朝鮮学校ができて、7年、学校が小学校、中学校、高校というのがあったんですね。10年間みんな勉強すると、中学校、ロシア語では中学校というのが。7年生まで勉強して、そこでまた、勉強したらですね。仕事の専門学校とか入りたくて、大学で勉強したい人は、8年、9年で勉強しなくてはならなくて、それで、サハリンのポロナISKの7年生の朝鮮学校ができたんですね。

先生は主に、中央アジアから来た人で、中央アジアには朝鮮大学があつて、卒業生たちが来て、彼たちがハングルをわかっていて、先生をして。それで7年生を終わって、そんなときやっぱり、そのときの韓国語というのは全然わからないんですよ、それでも少し韓国語を勉強して残っています。私が7年

生を終わった時には、その上の学校はなかったです。朝鮮語の勉強するところは。それで、7年生おわって、ロシア学校7年生にあがったんですよ。それで、全然もう言葉が通じなくて、勉強できなくて、ひとつの学校に行ったら、断られたことがありましたね。6年生か5年生行きなさいと。数学はね、数学は朝鮮学校で勉強して、当り前に勉強して、数学好きで、数学はロシア語でもわかったんですけど、ただ、ロシア語ですね。入ってから勉強したのが、なんというのか、いま考えたら、そのとき私がどう勉強したのかわかりませんが、かなりロシア語を覚えなきゃいけないという覚悟でもって。辞典あるでしょ、日本の辞典で勉強して、ようやく7年生終わって、8年生、9年生、中学に入るようになって、ロシア学校ですね、はいつて、それで、まあ、ロシア学校で勉強しているときはもう、言葉っていうのは、本当に難しかったですよ。そのときにわかっていたのは、日本語だけで、ロシア語も全然だめだったし、韓国語も、うちではね、うちではまたそのときは、日本語しか使っていなくて、親たちは韓国語も言いましたけど、私は日本語。お父さんたちも日本語でしたからね。ロシア学校をようやく卒業しましたね。本当によく勉強して。

それで、ロシア学校おわって、51年度に朝鮮学校を終わって、55年度にロシア学校を終わって、大学へ行くつもりで、大学を受けたんです。サハリンに師範大学があったんです。それに私は、私はどうしても大学を卒業する目的があったんですね。学校では、数学の方に行きなさいって言われていたんですけど、サハリンには数学専門の大学ってなかったんです。これあの、師範大学ですから、先生を育てる。専門にやる気になると、ロシア語で университет, 総合大学があるんです。そこで、数学が専門に勉強できるってわかって、師範学校の試験受けた、試験はよく受けたんですけど、結局は、国籍がないということで、断られたんですね。どうしてもだめですね。勉強したいけど、仕事しなさいって言われて、勉強したいんですよ。

それで、中央アジアから来た朝鮮・韓国人、高麗人という朝鮮人たちが、政治部長とかはちがうんだけど、彼らたちのところに行っても、あんた仕方な

いって、言われて、仕事しなさいって言われて、彼たちにそう言われて、涙出ましたね。そのとき、私たちは他国に住んでいるんでないかって、差別のあれを感じたんですね。お父さんの目的は私をどうかして勉強させるってことで、国籍をとりなさいって、それで、私はロシアへ、申請書を出して、そのときは、申請書を出すと出てきたんですね。

ロシアの国籍を持ってから、サハリンには残らなくて、大陸まで行きました。一年目は、まあ入れなくて、二年目に入りました。長い話ですけど。数学を力学数学科に入って。学部で入って、5年間勉強しました。入学したのが57年度で、卒業したのが62年度。専門はですね、応用力学っていうんですね。そのとき、モスクワ大学を卒業しても専門が少なくて、いろんな機関から来てくださいて、言われたんだけど、(そ)して、私はモスクワに残ろうと思ったんですけど、親たちが、サハリンに帰ってきなさいって言って。

それで、サハリンには研究所がひとつあったんですね。海洋地質物理研究所、というのかな。サハリンでは専門家は少なかったんです。直接この、研究所長が来てですね、モスクワ大学に来てですね、私に話に来て、行きませんか。そのときに、ロシアでは若い研究者には住宅代を出してくれる条件なんですね。一番難しいのは、若い人、専門家が住むところがなかったんですね、その関係から、所長が私にあげますからと。それで私はね、良い家をもらいました。私は何十年も、運が良かったと思いますね。2000年度までいて、論文も書きましたしね。ここに書いてあるように、専門は地震と津波ね。地球物理の専門。地震、津波で、私の主な専門は津波でした。津波に対して、材料を集めて、太平洋地域の津波のカatalogを2冊出しました。それは、世界でも使っています。

— ソ連国籍を取得したのは、55年ですか？

55年ですね。56年にとりました。55年は卒業して、55年の末に出して、56年の春にももらいました。

— 研究所ではどんな立場だったのですか？

研究員ですね。ロシアでは教授というのは大学でしかないんですね。その

時は私はまた、上級研究員ですね。博士号はとったですよ。

— 論文を書くときは、ロシア名ですか？

私は全然使いませんでした。ゴ・チョンナムでした。ロシア語で。

最後に彼は、こう語っている。

— 今でも、無国籍の方はいるのですか？

います。あの、したらうちの父さんなんか言っていました。戦後にね、ロシア人たちが日本から私たちを解放しましたよと。解放したって意味がわからないって、お父さんはわからないって言いました。何から誰を解放したのかって、日本時代はそれでも、朝鮮人は自由に歩いたんですよ。どこでも行きたいところに。ところが、ロシア人が来てからね、何もみんなどこに行くにでも、自由に歩けなかった。自由を失った人たちがね、誰が誰から、誰に解放したのかって。わかりません、て。

歳をとった人たちには本当に大きい不満があったんですね。それで、本当に多くの人たちがどうかして韓国へ、母国へ帰るって、そう思っていたんですけど。結局、それが全然できなくて、うちのお父さんももう亡くなりましたけど。うちのお父さんは、ロシアの国籍とったのは目的があって取得したんです。子供を勉強させなきゃだめだって、それで国籍を取りました。私国籍を出すときは、私一人しか出さなかったんです。したら、そのあと、弟、妹たちも勉強するためには国籍を出さなきゃいけないって、出したんですけど、うちのお父さんとお母さんは死ぬまで無国籍でした。

— 北朝鮮に留学した人たちがいまどうなっているかは、もうわからないのですか？

わかりませんね。

キムサンギル
金相吉は、1936年3月25日、樺太の大泊生まれである。戦前の教育から話している。

— 学校ではどう呼ばれていたのですか？

なりきんそうきち
成金相吉。そのとき日本政府のそういう政治で以て、韓国の朝鮮人はみんな

な日本の名前に改正したんでしょ。だから、父親は、成金キョウラ。その前は、^{キムウンソン}金応成、これね、朝鮮の名前。

— 家の中でみなさんどんな言葉をしゃべっていたのですか？

日本（語）ですよ、全部日本語です。僕は小さいころは、朝鮮語なんてわからなかった。ただ、ふたつみつつ、「やかん」を朝鮮語で、チュジョンジャって言った、それと、なんだかふたつみつつしかわからなかった。

— ご両親は、どんな言葉をしゃべれたのですか？

母さんは、その方面では、日本語は下手だったんですよ。家にしかないから。もちろん、朝鮮で、なんか学校で勉強して、習ったと思うけど。父さんは、学識があったんだね、どこで朝鮮で何を習ったかはわからないけど、日本語は達者でしたよ、何も問題なかった。書くのも、そうです。母さんは書けなかったでしょ。

— ご両親の間ではどの言葉を使っていたのですか？

そうですね、そんなときね、どうだったかな。朝鮮語は使わなかったでしょ。朝鮮語や朝鮮人ってのがあるってことはわかってたんだよ。日本時代にそういうときに、国語実習とかいう厚い本があったんです。それを朝鮮人たちに日本語を習うように、そういうこんな厚いのがうちにひとつあったんです。それで好奇心で見たんです。習う必要もなかったし。そういうのがあったから。どっかで、本が出て来たのか、わからないけど。父さんは日本語達者だったですよ。

— 日本時代は、自分が朝鮮人だという意識はありましたか？

小さい時から。学校あるいていたときから。周りの人もわかっていただろうし。友達同士で、朝鮮人とかどうか、どうだったのかな。隣が二階建てのうちで、半分、うちで半分为警察だったんですよ。そこの息子が、僕と同じくらいで、タケダススムって、予科練行くって。45年かな、そこの兄さんが、子供たちはみんな一緒に、学校のそばに山があって、そこに行って、相撲を教えてくれたりね。まあ、普通だったですね。特別にお前は朝鮮人だって、差別は。子供たちはわかんなかったかもしれない。僕が朝鮮人だってこ

とを、親たちはもちろん知っているでしょ。話してみたら違うでしょ、発音とか。母さんなんか話したらすぐわかるでしょ。

朝鮮学校の思い出を次のように語っている。

— 朝鮮学校へは入りましたか？

入るのは、4年生、もうそのとき朝鮮学校の子供たちは、正しく勉強して来た人間でないんですね。僕は日本学校をはじめてから入っていたけど、勉強もよくしたし、朝鮮学校入った時は、日本語で言ったんですよ。いま、日本学校で勉強して、今度は朝鮮学校で勉強して。日本語で言ったんですよ。したから、4年かそこらで、何カ月やってみたけど、他の生徒は全然なんにも変わらないんですね。それで、すぐに5年生にあげてくれたんですよ。7年で終わったんですよ。

— 当時、学校では生徒はハングルを使えたのですか？

ハングルしゃべれる子はいましたよ。上手っていわないけど、自由にしゃべれる。日本語しかしゃべれない子の方が多かったです。

— 朝鮮学校の先生どのような人たちだったのですか？

朝鮮学校の先生は、同じくサハリンで解放された人たち、日本時代に来ていた人たち、その人たちも、まあ、ちょっと小学校終わった人とかね、漢字なんかも知っていた人、そういう人が学校の先生になって。2年3年たって、今度はロシアの、ソ連の大陸から朝鮮人、大陸朝鮮人、先生たちが入って来た。なぜかという、ソ連の政治政策で、我ら樺太、サハリンにいる朝鮮人を教育するって、政治的、学問的に教育するって。そういう目的で、スターリン時代にスパイって言われた人が、そこで教員大学とか言うんだけど、短期大学、二年だけの、そういう人たちが来たんですよ。あの人たちはロシア語をしゃべるんです。まあ、発音もいい、そういう人もいたし、今思うと、発音もやっとな、外国語だから、人によって、外国語を発音をよく話せる人もいるし、学識はあるけど、発音は駄目なひとも、いろいろいた。そういう人たちが来たから、だんだん、前に教師をしていた人は下がっていくでしょ。なぜかしたら、思想的に違う。ソ連時代はそうでしょ。第一に思想だからね。

共産主義思想，それがあるもんだけ，教育を受けた人だけ。だから，前にいた人はだんだん退ける。だから，僕ら7年終わる時は，校長も，あそこ，大陸から来た人で，いばって，僕たち来る時には，スターリンと直接，握手して来たっていばってた。学校は学校で，そういう分野だし，経済的には工場とか職場では，政治部長って，おもにみんな朝鮮人ね，日本語もわからない，ロシア語もわからない，みんな無知識の人たちがたくさんだったから。だから，そこで何をしたかというと，政治部長ってのをやって，工場とかね，そういうのに，大陸から来た朝鮮人が入っていばってから。

— 彼らが大陸から来たというのは，知っていましたか？

ああ，私らは知っていた。別に知らせなくてもわかってたんですよ。隠すこともなかった。むしろ，宣伝してたんだから。スターリンと握手したとかなんだとか。

紙数の関係で以後は省略するが，これだけでも戦前の樺太の生活，戦後の引き揚げの問題，朝鮮学校や「無国籍」問題などの一端は理解してもらえら
だろう。何人かの人^{トマンサン}が，都万相の事件に触れているが，1977年，都は両親が
いる韓国に帰国しようとして，何度も日本経由での韓国への帰国を申請した
が，却下されたので，彼ら一家はコルサコフ（大泊）でデモをした。すると
当局は，都一家を精神病院に監禁し，最終的にはハバロフスク経由で北朝鮮
に引き渡した。この事件については，李炳玉の兄李炳律が『サハリンに生き
た朝鮮人』⁽²²⁾に書いている。KGBの支配下で，集会や言論の自由が，いかに
奪われていたかというのも大きな問題である。

おわりに

戦後サハリンの朝鮮人の生活の一端を見てきたが，まず「残留朝鮮人」は，
どのぐらいいたのであろうか。「4万3,000人」説というのがあるが，これは
サハリン裁判で，朴魯学が主張した数字である。半谷史郎が，モスクワの党

文書を使って推定しているが、沿海州から来たソ連系朝鮮人（「高麗人」^{コウリョウサラミ}と呼ばれていた）が約2,000人（51年）、北朝鮮系が1万1,700人（52年）から8,748人（56年）、先住朝鮮人が2万7,335人（52年）から2万1,251人である。州全体では、51年に4万2,916人、59年に4万2,337人という数字がわかっている⁽²³⁾。「4万3,000人」という数字は、すべての朝鮮人の総数に近いものである。50年代の北朝鮮系の激減は、明らかに朝鮮戦争によるものである。

このように朝鮮人社会が3つに分断され、わずか人口比5%のソ連系朝鮮人が「支配エリート」となる。朴亨柱^{パクヒョンジュ}の『サハリンからのレポート』は、実によくその実態を伝えている。「1950年代にはいり、先住朝鮮人は、半チョッパリ、一番粉と呼び、ソ連系朝鮮人をオルマウヂャ（俄馬牛子）、二番粉と呼び、（北朝鮮からの）派遣労働者朝鮮人をパキョンノム（派遣奴）とそれぞれ呼んで相互に揶揄し軽蔑しあった」⁽²⁴⁾。

その後の差別の実態は、インタビューにある通りで、賃金から休暇、教育などでも大きな差別があった。戸籍も、最初は北朝鮮戸籍を奨励したり、北朝鮮への帰国を勧めたが、60年代の中ソ論争で、北朝鮮が中国側につくと、朝鮮学校も閉鎖し、ソ連への「同化」を推進していった。しかし、ソ連国籍はなかなか与えられず、「無国籍」として移動の自由も制限され、大学進学や企業での昇進さえ妨げられた人びとが、人口の10%以上いた。

ソ連系の朝鮮人は、戦前の抗日パルチザンや大祖国戦争を経験した人たちである。彼らからみれば、日本の植民地下で「皇国臣民」として暮らしてきた樺太の朝鮮人たちは、「負け犬」である。まして樺太には、共産党はおろか抵抗組織さえ作れなかったのである。戦後の「冷戦下」では、日本語のできる先住朝鮮人たちは、スパイになる危険性がある。それが年配者にソ連国籍を与えなかった、理由のひとつになっている。彼らが、喜んで日本語のインタビューに答えてくれたのは、戦後のサハリンへの批判が強かったからである。現在、ソ連崩壊後も、サハリンは本当に自由になったのか、もう少し考えてみたい。東アジアが新「冷戦」時代を迎えようとしている現在、常に「戦

争」の最前線にあった樺太・サハリンの歴史を振り返ることが重要である。

注

- (1) 西村秀樹「阪神教育闘争と吹田事件」(小此木政夫監修『在日朝鮮人はなぜ帰国したのか』現代人文社所収, 2004 年)。なお「阪神教育闘争」については, 金慶海編『在日朝鮮人民族教育擁護闘争資料集 I』(明石書店, 1988 年) 参照。
- (2) 鶴飼哲ほか「外国人差別制度・在特会・ファシズム」(『impaction』第 174 号, 2010 年) 35 頁。在特会は, インターネット上に活動の映像を流し, 会員を募集している。このような運動を「ネット右翼」と呼んでいる。最近の活動については, 安田浩一「「在特会」の正体」(『g²』6 号, 2010 年) 参照。
- (3) 矢内原は, 植民学者のなかで, 例外的に「植民」を「帝国主義」の問題として議論しているが, 今日では帝国日本の植民政策の体制内改良主義者として評価されている。若林正文編『矢内原忠雄「帝国主義下の台湾」精読』(岩波現代文庫, 2001 年) 参照。
最近, 和田春樹は, 矢内原・鈴木武雄らの戦後の言説を取り上げて, 「帝国主義者の方法的反省であって, 帝国主義そのものの反省ではありません。同化主義の反省にすぎない」と厳しい批判をしている(『日本と朝鮮の 100 年』平凡社新書, 2010 年, 152 頁)。
- (4) 木村健二「近代日本の移民・植民活動と中間層」(『歴史学研究』第 613 号, 1990 年) 135~143 頁。なお同「近代日本の移民研究における諸論点」(『歴史評論』第 513 号, 1993 年) 参照。
- (5) 同「旧植民地・勢力圏への移民史研究の動向」(『ユーラシアと日本: 交流と表象』人間文化研究機構, 2006 年) 97 頁。
- (6) 杉原達『越境する民』(新幹社, 1998 年)。
- (7) 坂口満宏「移民研究の射程」(『日本史研究』第 500 号, 2004 年)。
- (8) 岡部牧夫『海を渡った日本人』(山川出版, 2002 年)。
- (9) 今西一編著『世界システムと東アジア』(日本経済評論社, 2008 年) 参照。
- (10) 「植民地公共性」, 「植民地国家論」については, 並木真人「「植民地公共性」と朝鮮社会」(渡辺浩他編『「文明」「開化」「平和」』慶応大学出版会, 二〇〇六年) 参照。昨年, 韓国でも, 尹海東編著の『植民地の公共性』(本と共に社, ハングル) が出版され, 「植民地公共性」をめぐる議論は, 活発になってきている。
- (11) 金哲「同化あるいは超克」(酒井直樹他編『「近代の超克」と京都学派』以文社, 2010 年) 214 頁。
- (12) 1991 年 12 月 4 日の衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会で, 五十嵐広三委員は, 次のように語っている。

一つは, サハリンの国立公文書館に旧樺太時代の公文書等を中心にして約二万五千点ぐらいの資料が保管されているわけですね。実はことしの八月, それからついこの前十二月の中ごろ, 私も参った折に見てまいりました。約四分の一ぐらいは向こうで整理をしているんですが, 四分の三ぐらいは未整理のままですね, 段ボールに詰め込んで, 縛って, 公文書館の三階に積み上げているの

であります。中には、例えば豊原の郵便局における郵便貯金台帳、何かこれも貴重なものでなんですが、これがやはり湿気だとかカビで正常な保管に絶えず、向こうでは調査会を設けて、それぞれの資料についての方針を決めて、今の郵便の台帳などは焼却処分しているんですね。非常に問題だと思うのですね。

……実はこの前、十一月の十四日でありますが、サハリン州議会のアクショウ・ノフ議長に会いましたときに、ぜひひとつこれをできれば日本側に譲渡してもらいたい、そのことについて御要請いたしましたところが、非常に好意的なんですね。……当面共同で整理していこうということのための、やはり日本語なものですから日本側の協力だとかあるいはコピー機だとかあるいはそういうものの棚だとか、こういうことについての協力もしてほしいなどという話もあって、これは外務省ロシア課の方にもよく報告してあるのでありますが、ぜひこの機会に外務省としても実務レベルで具体的に交渉を進めて、この貴重な資料を譲り受けることができるように御努力いただきたい。(サハリン残留韓国・朝鮮人問題懇談会編『サハリン残留韓国・朝鮮人問題と日本の政治』(同会、1994年) 278～9頁。

(13) 林えいだい『証言・樺太朝鮮人虐殺事件』(風媒社 1991年)。なお崔吉城『樺太朝鮮人の悲劇』(第一書房、2007年) 参照。

(14) 三木理史「戦間期樺太における朝鮮人社会の形成」(『社会経済史学』第68巻5号、2003年)。

サハリン・樺太史研究会の席上、原暉之からも指摘されたが、三木論文では、日本側の史料だけによっているため、ロシア革命の影響だけが強調されているが、日本軍の沿海州での朝鮮人虐殺や朝鮮人のパルチザンへの参加、その人たちがサハリンに逃亡しているなどの側面が欠落している。なお鄭棟柱(高賛侑訳)『カレイスキー』(東方出版、1998年) 他参照。

(15) 朴享柱『サハリンからのレポート』(御茶ノ水書房、1990年) 8頁。

(16) 前掲『サハリン残留韓国・朝鮮人問題と日本の政治』394頁。

(17) 同上、66・67頁。

(18) 水野直樹「在日朝鮮人・台湾人参政権「停止」条項の成立」1・2(世界人権問題研究センター『研究紀要』1, 2号、1996・97号)。

(19) 樺太アイヌが除外されているが、高木博志は、1933年に「日本国籍」を付与されている、としているが(「アイヌ民族への同化政策の成立」歴史学研究会編『国民国家を問う』青木書店、1994年、178～180頁)、これは水野直樹の言うように「法的地位が「外地籍」(あるいは無籍状態)から「内地籍」に変更された」と解するのが正確であろう(同上1, 65頁)。すべての先住民を、そう簡単に「国民化」したわけではない。

(20) 水野同上2, 69～70頁。

(21) 古関彰一『「平和国家」日本の再検討』(岩波書店、2002年) 103頁。なお従来は公開されていた、この吉田発言の載っている外務省の原史料には、「個人情報保護法」によって白い紙が貼ってある。

(22) 李炳律『サハリンに生きた朝鮮人』(北海道新聞社、2008年)。

(23) 半谷史郎「サハリン朝鮮人のソ連社会統合」(『スラブ・ユーラシア学の構築』北海道大学スラブ研究センター、報告集第5号、2004年) 74頁。

(24) 朴享柱前掲書、15頁。

(付記) 本稿は、2010 年 8 月の延辺大学での研究会、9 月のサハリン・チェーホフ・シンポ、12 月の九州大学韓国研究センター開設 10 周年シンポ、2011 年 2 月のサハリン・樺太史研究会で話した内容に加筆したものである。コメントをいただいた、延辺大学の権哲男教授、北海道情報大学の原暉之教授、延世大学の白永瑞教授、東亜大学の崔吉城教授、北海道大学の白木沢旭児教授、奈良大学の三木理史准教授、北海道情報大学の天野尚樹講師をはじめ、参加者の方々に感謝する。

なお本研究は、2009・2010 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）「19～20 世紀北東アジアのなかのサハリン・樺太」（代表者・今西一）の交付を受けている。

前号「京大天皇事件前後——小畑哲雄氏に聞く——」正誤表

7 頁 2 行目から 3 行目にかけて

進講を受けてようとした時、[×] → 進講を受けようとした時、[○]

7 頁 17 行目

八幡市橋に隣接する[×] → 八幡市橋本に隣接する[○]

8 頁 2 行目

(同、182 号、2009 号)[×] → (同、182 号、2009 年)[○]

15 頁 6 行目

戸籍名はヤクです。[×] → 戸籍名はヤキです。[○]

17 頁 16 行目

陸経では、午後[×]の実科は士官学校での[×]副隊長が指導にあたりましたが →
陸経では、午後[○]の術科は士官学校での[○]区隊長が指導にあたりましたが

20 頁 12 行目

220 円が 300 円に[×] → 120 円が 300 円に[○]